

2009 大学案内

広島市立大学

HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

●国際学部 ●情報科学部 ●芸術学部

INTERNATIONAL STUDIES

●Dept. of International Studies

ART

●Dept. of Fine Art

●Dept. of Design and Industrial Arts

INFORMATION SCIENCES

●Dept. of Computer and Network Engineering

●Dept. of Intelligent Systems

●Dept. of Systems Engineering



POWER OF
HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

独創性あふれる クリエイティブ集団

自ら考え、自ら動く。好奇心旺盛に興味ある分野をとことん追究し、個性豊かに表現していく…。

研ぎすまされた感性と自由な思考、実行力、そしてそれを生み出す学びの環境。

そのすべてがバランスよくあわさって、新しい時代、新しい文化、新しい伝統を創造していくチカラとなる。

市大力。それは独創性あふれるクリエイティブ集団が放つ確かな存在感。





INDEX

夢を実現した卒業生	3
アートな施設が創り出す学び空間	5
夢に向かって進む市大生	7
学部構成／学長・市長メッセージ	9
国際学部	
教育方針／構成	11
国際学部卒業生	13
5つのプログラム	15
英語力・多言語力	19
国際力	20
国際学部在学学生	21
情報科学部	
教育方針／構成	23
情報工学科	25
知能工学科	27
システム工学科	29
学部総合科目／研究設備	31
研究紹介	33
芸術学部	
教育方針／構成	35
美術学科	37
美術学科学生作品	39
デザイン工芸学科	41
デザイン工芸学科学生作品	43
創造工房	45
大学院	47
就職	49
サポート体制	53
キャンパスマップ	55
キャンパスライフ	57
地域・世界に開かれた大学	59
入学試験	61

International Studies

Information Sciences

Art



T Art
akahiro IWASAKI

2003年3月 芸術学研究科 博士後期課程 修了

拡大・変容していく多層構造のネットワーク環境をサヴァイヴ!

岩崎 貴宏 | 文化庁新進芸術家海外留学制度にて英国滞在

物理的な移動手段の発達とその低価格化、そして情報通信の急速な変革は、現在英国で芸術活動をしている私にとって大きな関心事です。この状況は海外で仕事をしながら、広島プロジェクトにも同時に携わることができる。こういった多層的な環境がもたらす新たな視点や感覚を楽しんでいます。

FILE.1 | 夢を実現した 卒業生

活躍めざましい 市大 ユニーク 市大 力

POWER OF HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

自ら学び、自ら動き、まっすぐに夢に向かって歩き続け、自らの手で未来を拓いた卒業生たち。
そして今、多彩な分野でめざましい活躍をみせ、その輝く個性、確かな存在感を示している。



S Information Sciences
atoshi MASUDA

2000年3月 情報科学研究科 博士前期課程 情報数理学専攻 修了

目標を見つけた時がスタートの時!

益田 智史 | 株式会社チャネット 代表取締役

他大学に先駆けてパソコン等の最新設備を整えた市大で専門知識と技術を学んだことが、私の“起業”への思いに弾みをつけました。現在、システムの企画から開発・運用、人材の育成・派遣まで幅広い業務を通して、人と人を結ぶネットワークを構築。若者の夢と企業の未来の架け橋となるべく邁進中です。



H International Studies
Isae FUJIOKA
2003年3月 国際学部 国際学科 卒業

生徒の数だけ喜びも感動もある!

藤岡 寿江 | 広島県立福山誠之館高等学校 勤務

学生時代、ゼミの先生に講義の内容だけでなく、将来のことなどいろいろと聞いていただいたことが今も心に残っています。私も英語教師として、一人の人間として生徒の話を親身になって聞ける教員でありたいと思っています。



H International Studies
 Hirojuki HARUKI
 2004年3月 国際学部 国際学科 卒業

迷った時は常にGO！サイン

春木 寛之 | 監査法人トーマツ 勤務 公認会計士

企業の会計を企業の外部からチェックする公認会計士。市立大学で学んだ知識の根底にある理論を押さえ、そこから物事を考えていく本来の学問のスタンスが、仕事の上でも大いに活かされています。仕事でも人生でも迷うことは多いですが、迷った時は常にGOサインと思って、これからも突き進みます。



R Art
 Reijiro WADA
 2002年3月 芸術学研究科 博士前期課程 修了

環境とリンクする彫刻制作を目指して、再びドイツへ

和田礼治郎 | 2008年3月 東京藝術大学大学院博士後期課程 修了(博士号取得)

恵まれた制作環境や、ドイツ・ハノーバー専科大学に留学できたことなど、市大時代は充実していました。2008年の秋からは、文化庁の新進芸術家海外留学制度の研修員として再びドイツに。環境とリンクした彫刻という、私が目指す作品を追求したいと思います。



A Art
 Yako TOIDA
 2004年3月 芸術学研究科 博士後期課程 日本画専攻 修了

創作する姿勢を大切に、生徒達とともに学ぶ

樋田 礼子 | 日本美術院 院友

宮島工業高校・基町高校・比治山大学短期大学部美術科非常勤講師

学生時代、第一線で活躍されている先生の下で、制作だけに没頭できる濃厚な時間を持てたことは、今の創作活動のうえで探求する姿勢を持ち続ける心の支えとなっています。また、講師として生徒達をサポートする中で、生徒から逆に教えられることもたくさんあります。



M Information Sciences
 Muneyoshi MAEDA
 2005年3月 情報科学研究科 博士前期課程 修了

基本が身についているから、どんな問題にも対応できる

前田 宗克 | キヤノン株式会社 勤務

イメージコミュニケーション事業本部 DCP第二開発センター

ビデオカメラのプログラムの開発を行っています。現在の部署に入って3年目、まだまだ勉強しなければいけないことばかりですが、新人にもどんどん仕事を任せられる社風の中で、思い切り仕事に集中しています。開発を進めていく上で問題が発生した時にどのように対処すればいいか、基本的な考え方や取り組み方は、市大の研究室で身につけたもの。だから、今、どんなことにもトライしていけるのだと思います。



K Information Sciences
 Imiyo FUJII
 1998年3月 情報科学部 情報工学科 卒業

自分に何ができるかを考えながらポジティブに生きる

藤井喜美代 | NTTコミュニケーションズ株式会社 勤務

NTT Europe Ltd. ITP Team

現在、ロンドンにて欧州に拠点を持つ日系企業に対して情報共有システムの提案、構築、運用等を行っています。さまざまな人種や文化背景を持つ人たちの共同作業は、考え方の違いなどに戸惑いや憤りを感じる一方、実に新鮮で刺激的です。市大で多様な学問を学ぶ人たちを通して自分とは異なる価値観と出会い、違いを受け入れることの大切さを学んだことが今につながっています。



01

02



03



04



05



「FILE.2」アートな施設が創り出す **学び空間**

この環境が育む

POWER OF HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

迫力の 市大カ

新しい発見、新しい出会い、新しい夢が待つキャンパスは、どこをとっても絵になる風景がひろがる。

アカデミックでありながら、斬新でユニークな学び空間に、知的好奇心が、感性が大いに刺激される。



06



07



08

- 01- 学部別棟間連絡路
すがすがしい風が吹き抜ける連絡路。学部を越えた学びが行き交う。
- 02- 情報科学部別館
洗練された知の空間。ここから未来の情報技術が発信される。
- 03- 講義棟
肉声が最後列席まで届く。音響にも配慮した機能的かつ美しい講義室。
- 04- 食堂
豊富なメニューに思わず笑顔。学生たちの楽しいおいしい交流の場。
- 05- 長崎平和の鐘
被爆50周年にあたり日本労働組合総合連合会から広島市に贈呈され、次代を担う若者を育てる本学に設置。
- 06- 憩いのベンチ
芸術学部の学生がデザインしたベンチ。商品化も検討され多彩なシーンを彩る。
- 07- 講堂
芸術学部教授等の手による舞台の織帳や壁面レリーフは本学ならではの。
- 08- 学部棟エントランス
モダン&開放的な空間がつむぎだす充実した楽しい学生生活。

コンピュータによる
数値解析シミュレーションの世界を極める
情報科学部情報機械システム工学 4年 定森 健悟



テニス部キャプテンを務めて
実感したコミュニケーション力

情報科学部情報機械システム工学 4年 岩元 由香



基礎制作や児童ワークショップ参加など、
さまざまな時間が作品につながる

芸術学部美術学科油絵専攻 2年 小形 有希



ボランティアに参加！
世界の子ども達と交流

国際学部国際学科 4年 佐藤 未希



みんなで作る！語学力を活かし社会貢献

国際学部国際学科 4年 宮原 圭太



授業やイベント参加、平和学習など、
たくさんの刺激に出会う

国際学部国際学科 3年 宮原 依里



FILE.3 | 夢に向かって進む 市大生

未来は自分でつくる

POWER OF HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

熱き 市大生

たくさんの友だち、先生、広く深い学び…そのすべてを自分のエネルギーへと変えて、未来への階段を駆け登る市大生。
夢を語るそのまなざしは、熱く、力強く、そしていきいきと輝いている。

将来は、海外で仕事をするのもいいかも

国際学部国際学科 1年 小松 忠



留学して、英語力を磨きたい！

国際学部国際学科 1年 作田 遥香



木とプラスチック、
対極的な素材が今、面白い

芸術学研究所博士前期課程 1年 丸橋 光生



絵を描くために必要なものは
デッサン力、そして体力・集中力！

芸術学部美術学科油絵専攻 2年 廣岡 元紀



貿易を通して
日韓の架け橋に！

国際学部国際学科 4年 金 祐賢



商品開発に興味しんしん！

国際学部国際学科 4年 大津 慶子



自然言語処理学の勉強から音声認識の研究へ、
夢はどんどん変化する

情報科学部知能情報システム工学科 4年 大谷 章





デザインと音楽の融合を目指す、
だから逃げ道は作らない!

芸術学部デザイン工芸学科立体造形 4年 上野 晃宏



どんなチャレンジも
無駄にはならない

情報科学研究科博士前期課程情報工学専攻 1年 児玉孝太郎



真剣に学べばもっと楽しい!

国際学部 国際学科 3年 橋本 奈美



泣いて笑った大学祭。
完全燃焼!

情報科学部 情報工学科 3年 三木 佑亮



アーティストでもある
先生の存在は刺激的

芸術学部デザイン工芸学科現代表現 3年 辻原 咲紀



迷ったらやってみる、
そうすればきっと実現できる

情報科学部知能工学科 3年 小嶋 理子



自分に対して誠実な制作

芸術学部美術学科日本画専攻 3年 下谷 京平



絵本の挿絵を
日本画で描いてみたい

芸術学部美術学科日本画専攻 3年 岸野由佳子



IT×音楽の世界を
爆走中!

情報科学部 情報メディア工学科 4年 小方 祐馬



インパクトのある
作品を創りたい

芸術学部美術学科彫刻専攻 3年 天野 祐希

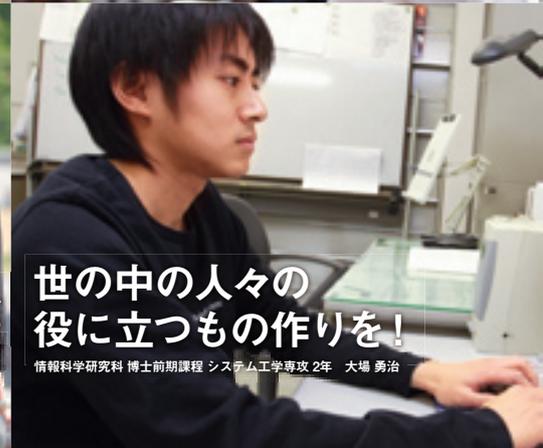


他言語を学ぶことが、
思考も視野も広げていく

国際学科国際学部 4年 佐次田 幸

先生との距離が近いから、
何でも相談できる

国際学科国際学部 4年 梶川 直樹



世の中の人々の
役に立つもの作りを!

情報科学研究科 博士前期課程 システム工学専攻 2年 大場 勇治



大学説明会の学生代表として
プレゼンテーションしたことは、
一つの自信になった

情報科学研究科博士前期課程情報工学専攻 2年 平本 和子



漆の世界は、
広くて深い

漆造形芸術学専攻 1年 舞岡 真伊



英語が使える秘書になる!

国際学部 国際学科 4年 石橋 歩

3学部が強く深く

POWER OF HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

響きあう 市大力

国際・情報科学・芸術の3分野において専門を深め、広げる教育を展開。

各学部による専門性の追求とともに、3学部の連携によって幅広い視野と専門分野を越えた知識を習得し

21世紀を生きるために必要な「知性」「感性」「理性」をバランスよく育みます。



地域に貢献する国際的な大学 科学と芸術を軸に世界平和と

21世紀をいきるために必要な「知性」「感性」「理性」をバランス良く磨く。

広島市立大学では、21世紀を迎えて社会的要請がより強まっている国際、情報科学、芸術の3分野にわたる専門的な教育・学術研究機関として、それぞれに対応した国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部を設置しました。各学部には、その社会的要請に、より細かく対応する学科を開設しています。

国際学部は、国際学科にて「国際政治・平和」「公共政策・NPO」「多文化共生」「言語・コミュニケーション」「国際ビジネス」の5つのプログラムを設定しています。

情報科学部は、情報工学科、知能工学科、システム工学科の3学科で構成しています。

芸術学部は、美術学科とデザイン工芸学科の2学科で構成、美術学科は日本画、油絵、彫刻の3専攻を擁しています。

各学部には、いずれも個性的で、幅広い知識や能力が身に付くような独自のカリキュラムを編成し、それぞれが有機的に連携し、相互に乗り入れながら、相乗効果を発揮しています。



広島市立大学長 浅田 尚紀 Naoki ASADA

広島市立大学は、広島市の都市像である「国際平和文化都市」にふさわしい大学づくりを目指して、平成6年(1994年)4月に「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念として設立された、国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部から成る大学です。各学部のカリキュラムは、それぞれの学問分野の教育・研究を通して専門性を深めると同時に、3学部の連携による総合科目や共通科目によって、幅広い視野と専門分野を越えた知識が修得できるように構成しています。大学卒

業後、さらに高度な学術研究を目指す人のために、それぞれの学部に基礎を置く3研究科から成る大学院博士前期・後期課程を設置しています。また、核兵器廃絶と世界平和を実現するための研究を行う広島平和研究所を設置していることも本学の特色です。

広島で国際、情報科学、芸術そして平和について学び、世界と地域に貢献する人材を目指す皆さんの入学を待っています。



全学共通系科目

区分	科目
全学共通系科目	総合科目 地球環境論 創作と人間 心の健康・身体への健康 情報とメディア 情報社会論 情報と企業 ひろしま論 平和と人権A(ヒロシマと国際平和) 平和と人権B(現代世界と人権) NPO論
	共通科目A 哲学A・B 世界の宗教 心理学 歴史学A・B 現代史Ⅰ・Ⅱ 世界の文学 法学(日本国憲法) 政治学 経済学 社会学 文化人類学 自然人類学 経営学 知的財産と社会
	共通科目B 数学概論 物理学概論 基礎物理学 化学概論 基礎化学 生物学概論 基礎生化学 情報科学概論 物理・化学実験
	共通科目C デッサン概論 油絵入門 日本画入門 立体造形概論 プレゼンテーション技法概論 デザイン工芸概論 コンピュータ・アート
教育科目	一般情報処理A 一般情報処理B
保健体育科目	健康科学 体育実技Ⅰ・Ⅱ

学部を越えた
学びを通して、
人間の幅を広げる

理解・判断・表現力を
専門的かつ総合的に修得。

「総合共通科目」「一般情報処理教育科目」「保健体育科目」の3分野で構成。各専門分野の複合領域をはじめ、人間と文化・社会・科学との関わり、創造と表現、コンピュータリテラシー(電子メール、情報検索、文章作成など)を学習します。さらに心身両面の健康づくりについて学びます。

ユニークな科目

【情報とメディア】
 1年生対象 2単位 選択
 ネットワーク環境の急速な進展に伴い、従来のメディアに対する概念なども変化しています。その変化が社会にもたらした影響について考察し、現代のネットワーク社会を安全に活用するためのリテラシー育成を目的としています。

【ひろしま論】
 1年生対象 2単位 選択
 広島市の歴史、行政、経済、文化などをひととしてその特色を知り、地域社会への関心を深め、地域社会の問題解決と将来の繁栄を思考できる幅広い見識をもった人材を育てることを目的としています。

【平和と人権A】 (ヒロシマと国際平和)
 1年生対象 2単位 選択
 特に「平和」の側面に焦点を当て、現代社会におけるその意識、構造、実現の課題について探求します。できるだけ多方面のゲスト講師を招いて、広島市の被爆体験を軸に、様々な角度から広島と平和の問題について考えます。

外国語系科目・資格取得科目

区分	科目
外国語系科目	CALL英語集中Ⅰ～Ⅳ 英語応用演習Ⅰ～Ⅳ 科学英語演習Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅰ～Ⅳ フランス語Ⅰ～Ⅳ 中国語Ⅰ～Ⅳ ハングルⅠ～Ⅳ アラビア語Ⅰ～Ⅳ ロシア語Ⅰ～Ⅳ イタリア語Ⅰ～Ⅳ スペイン語Ⅰ～Ⅳ 日本語Ⅰ～Ⅳ
教育職員免許状受領資格取得関係科目	教師論 教育原理 教育心理学 教育経営学 人権教育論 教育方法・技術論 教科教育法(英語)A・B 教科教育法(数学) 教科教育法(情報) 教科教育法(美術)A・B 教科教育法(工芸) 道徳教育論 教育課程論(特別活動を含む) 生徒・進路指導論 教育相談論 総合演習A・B・C 教育実習Ⅰ・Ⅱ 学校インターンシップ
学芸員資格取得関係科目	教育原理(再掲) 社会教育概論 教育方法・技術論(再掲) 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館情報論 博物館実習

グローバル
時代を生き抜く
語学力を身につける

国際人の基礎＝語学力を
実践的に修得。

語学センターの最新設備機器を有効に活用。また外国人教員による直接指導、多彩な教材の利用など、ハードとソフトの両面から充実させた学習環境のもと、実践的な語学力の修得を目指します。特に学習機能を高めることによって、読み、書き、話し、考える総合的な英語力を養います。

【CALL英語集中Ⅰ・Ⅱ】
 1年生対象 各1単位 全学部 必修
【CALL英語集中Ⅲ・Ⅳ】
 2年生対象 各1単位 国際学部・情報科学部 必修
 芸術学部 選択
 語学センターのコンピュータを用い、主として英語のリスニングとリーディングを集中的に訓練します。通常の授業のように教員が週1回授業するといった形態をとらず、指定された期間中(約2か月)、自分の都合のよい時間に自分のペースで学習します。学習の開始前と終了後にTOEIC IPテストを実施し、英語力及び学習効果を測定します。



広島市長 **秋葉 忠利** Tadatoshi AKIBA
 広島市立大学は、『国際平和文化都市の「知」の拠点—— 地域と共生し、市民の誇りとなる大学 ——』を目標として掲げています。「国際」「情報科学」「芸術」の3学部から成るユニークな学部構成を生かした教育と高度な学術研究の成果を地域に還元するとともに、広く世界に発信しています。これから広島市立大学を志望し入学される皆さんにはこの目標を共有し、さらに次代を担う豊かな感性と創造力を最大限に活用して、一つの枠にとられない柔軟な思考、言い換えれば、複眼的思考能力を培っていただきたいと思

います。そして、ここ広島で学ぶことの歴史の意味あるいはヒロシマの人的意味についても考える学生になってほしいと願っています。これから皆さんが創る21世紀を輝ける時代にするため、本学において充実した学びと悔いのない学生生活を送っていただくことを心から期待しています。

国際学部

国際政治・平和プログラム／公共政策・NPOプログラム／多文化共生プログラム／
言語・コミュニケーションプログラム／国際ビジネスプログラム



地球ベースの自由な学びを通して
未来の私が見えてきた。

多角的なアプローチを通して豊かな人間力を育む

大学院 国際学研究科 博士後期課程 3年 Pepijn van HOUWELINGEN、国際学科 3年 重村 なぎさ、3年 別所 保紀（写真左から）

International Studies

求める人物像 Admission Policy

- 1 21世紀の国際社会に関する学習意欲**
国際社会が抱えているグローバルな問題、地域社会で生じているローカルな問題に関心をもち、それらの解決を真摯に考える人。
- 2 境界を越える共生の思考の追求**
学問分野、地域・国などの境界を越えて、問題を考え、その解決を探求し、寛容な精神を身につけようとする人。
- 3 地域社会への貢献と国際的な活動の展開**
ひとりひとりが卒業後に地域社会で貢献し、さらには国際的な活動を展開していくための、しっかりとした基盤を築こうとする人。

教育方針

- 「学際性」の実現に向けて
- 5つのプログラムの可能性
- 少人数の魅力
- 丁寧で、適切なサポート体制

1年次

- 基礎演習
 - 国際研究入門
多様で複雑な現代国際社会について学際的に理解を深めながら、国際学部で学ぶ意義を考えます。
 - プログラム入門科目
5つのプログラムの案内をします。
- 全学共通系科目・外国語系科目・資格取得科目

人間力で時代をひらく

人間に興味のある人、国連で働きたいと思っている人、言葉に関心のある人、行政やビジネスにたずさわりたい人など、さまざまな想いや志とともに大学での学修を考えておられることと思います。

どんな道を歩むにしても、これからの社会で求められているのは、世界各地の違いのありかたを尊重し、共生の必要を理解できる国際的な感覚を備え、さまざまな分野の知識を5つのプログラムを通して、単なる情報としてだけでなく、問題の解決に役立つべく統合された新しい知を身につけた人でしょう。

生じているグローバルあるいはまたローカルな問題を見つめ、複雑な現実を理解し、その解決をめざすためには、学問の境界を越えた複眼的の視点を持ち、多面的に分析することが必要です。併せて偏ることなく、ものごとを寛か^{ゆるや}にみる目が必要でしょう。

この実現は平和の探求につながっています。

学問と生き方 国際学部長 大東和 武司 Takeshi OHTOWA



人を信じることは大切です。ただ、学問との出会いにおいては、先入観をもたず、疑うことは重要かと思います。疑問をもつことから探求が始まり、得られた成果を多くの人々が認めていくことが、社会を発展させることとなります。学問をすることは、知ることであり、望まれる社会構築への一助になっていきます。

「人が信じきっていること」を学問的に疑いはするが、「人」は信じる。国際学部で、強い信頼関係につながっている人をたくさんつくってください。国際学部での学び、出会い、生活がパワーとなり、エネルギーを生み、生涯の大きなバックボーンとなることを期待しています。



2年次

■発展演習

3年次

■専門演習

4年次

■卒論演習 ■卒業論文

核とする専門科目
5つのプログラムを

国際政治・平和プログラム
公共政策・NPOプログラム
多文化共生プログラム
言語・コミュニケーションプログラム
国際ビジネスプログラム

進路については P.50

取得可能な資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)
- 博物館、美術館などの学芸員

国際学部
卒業生!

自分を信じ、自分に期待。可能性に積極チャレンジ！

アイ・シー・ネット株式会社
米州・オセアニア部 勤務

どんな状況でも自分の軸をしっかり保つ。市大での学びが人生の礎に。

本村 公一 Koichi MOTOMURA

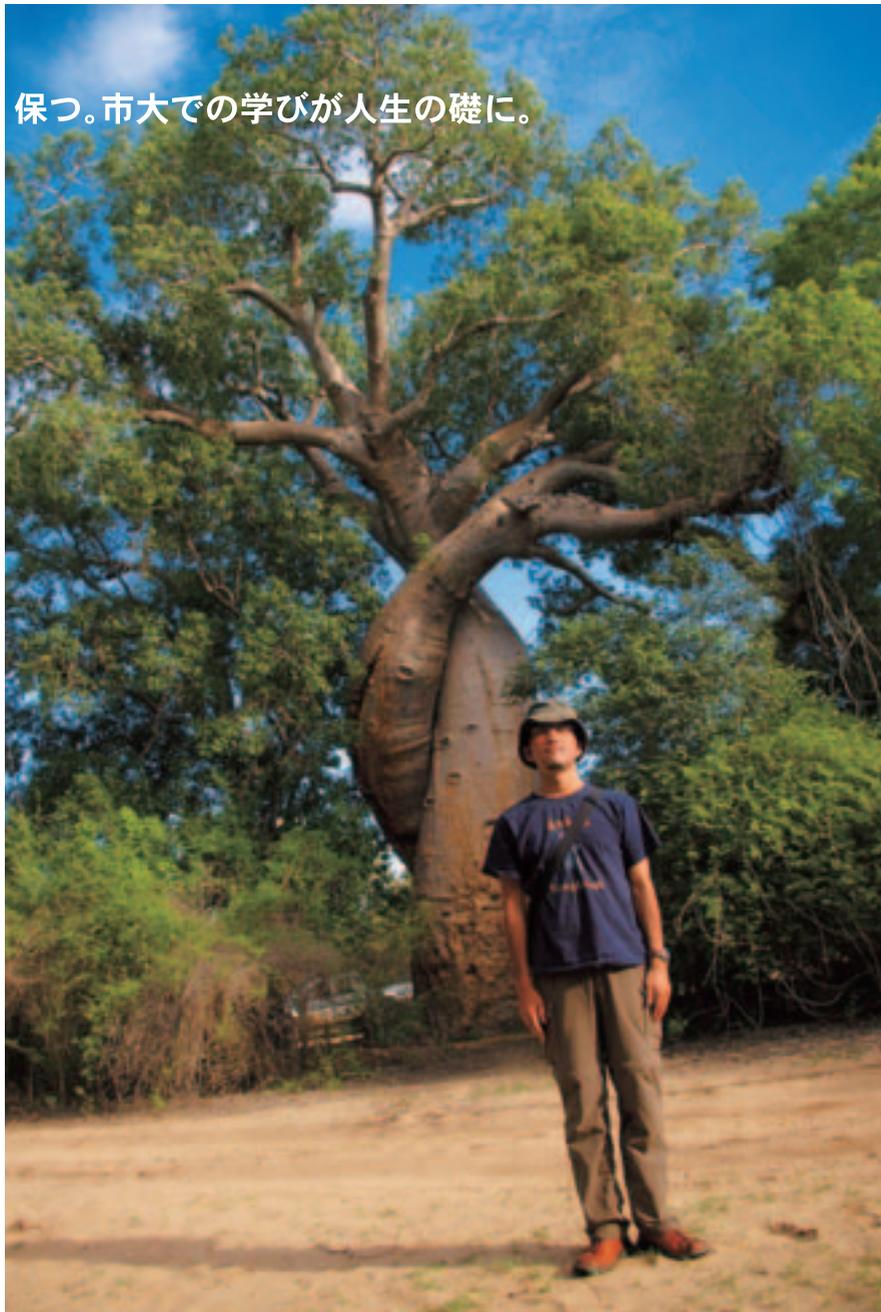
1999年3月 国際学部国際学科卒業

支援を受ける人たちの視点に立った活動を

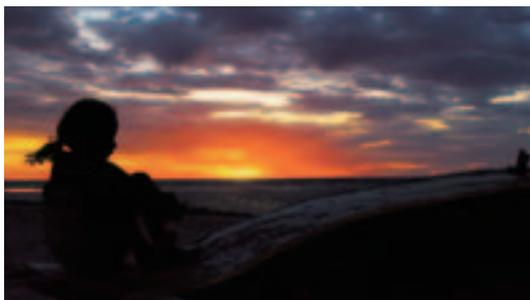
フィリピン共和国において、30年以上に及ぶミンダナオ紛争の影響による最貧困地域の復興開発計画の策定、緊急復興のための試験的事業の立案・実施に携わっています。同地域の貧困を削減し、和平の促進・定着に貢献することをめざしており、現場でエネルギッシュな人々と議論しながら、一緒に行動し、彼らの状況を改善していくことに大きなやりがいを感じています。その一方、開発コンサルタントとしての私たちの仕事は、途上国の厳しい生活・治安環境の中、異なる文化や慣習、制度に順応するだけでなく、時にはそれと闘う姿勢も求められます。孤独や葛藤の中で乗り越えなければいけない困難もまた大きい仕事だと思っています。

何らかの抑圧に苦しむ人たちを支援したい

そんな私を支えてくれているのが市大時代、学部横断の講義や課外活動を通して多種多様な価値観に触れ、学んだ“自分の軸をしっかり保つための術”で、私のゆるぎない礎になっています。今後はこれまでの経験を活かし、国際協力という枠に縛られることなく、誰かを元気にする活動、そしてそれができる後進を育てる活動もしていきたいと思っています。



マダガスカル・バオバブの大自然とともに



マダガスカルのお気に入りの夕景



フィリピンで仲良くなった子ども



南アフリカ・女性ビジネス促進プロジェクトのメンバーと



国際学部の多彩な学びを通して世界をとらえる、自分を見つめる。その先には、自分の思いがカタチとなる未来がある。
現状に満足することなく、常に可能性にチャレンジし続け、自分を成長させていく。この精神力、行動力こそ誇るべき市大力だ。

NHK 報道番組センター 政経国際番組部 勤務

自分の目で見えた事実を語る。市大時代にたたきこまれた“現場主義”が私の原点。

花井 利彦 Toshihiko HANAI

1999年3月 国際学部国際学科卒業

現場主義の番組制作

NHKで、取材から提案、撮影、編集、そして放送するまで一貫して番組制作に携わる“ディレクター”という仕事をしています。初任地は沖縄局で、沖縄戦の傷跡を見つめる番組や、高校野球球児の成長を追ったドキュメンタリーなどを手がけました。2007年8月に東京の本局に異動した後、緊迫するミャンマー情勢の舞台裏を検証する番組や、日本の遙か先を行く格差社会アメリカの実態と大統領選挙における住民の選択を描く番組を制作しました。

市大の最も好きなのは、気持ちが若い“現場主義”の先生が多くいることです。本だけに学ぶのではなく、「現場を見ろ、現場で感じる」と肩を押され、現場に出向き、当事者に話を聞くなど、実際に行動に移したことが今の私の原点となっています。国際学部で、経済から政治、古典から現代史まで、とにかく幅広く勉強できたこともこの仕事に大きく役立っています。

多くの可能性を与えてくれる国際学部

市大は「何かを学びたい。知りたい」というやる気と努力さえあれば、多くの可能性を与えてくれる大学です。皆さんも、この大学で学びながら新たな歴史を切り開いていって下さい。



普段は国際ニュース番組「きょうの世界」(BS1で放送中)を担当



「格差是正」を訴えるバード@セントルイス。アメリカ社会で広がる深刻な経済格差の問題を取材。



2万人を集めたバラク・オバマ氏の演説会。大激戦となったアメリカ大統領選挙を住民はどう見たのか、格差社会で分断される中間層に密着。



2008年に制作した「NHKスペシャル」のポスター。4ヵ月間にわたってアメリカ取材を行った。



番組制作は「チームワーク」から(右からカメラマン、現地コーディネーター兼運転手、本人、リサーチャー)。

5つのプログラムによる 将来目標を重視した柔軟な履修方式

この5つのプログラムでは、学生一人ひとりのルートづくりを目的に、それぞれの中に幅広い知識や経験など、たくさんの引き出しをつくることによって、将来、多様な分野で活躍できる可能性を育てていきます。

5つの領域から 時代をとらえる

「国際政治・平和」、「公共政策・NPO」、「多文化共生」、「言語・コミュニケーション」、「国際ビジネス」と、いま、求められている国際的・地域的なさまざまな問題を解決する能力を養うための5つのプログラムを用意。学生各自がそれぞれに関心ある分野を深く究める、あるいは複数のプログラムにまたがって学びステップアップを図るなど、柔軟な履修方式が特徴です。



1 年次

全学共通系科目
総合科目・共通科目を中心に学習します。
基礎演習
小グループでの演習が1年次からスタートします。
国際研究入門
国際研究への興味関心、問題意識を喚起します。
プログラム入門科目
5つのプログラムの案内をします。

2 年次

5つのプログラムを核とする
専門科目スタート

発展演習
学ぶ力と解決する能力を育みます。

3 年次

専門演習
最も関心のある分野に絞り込んで密度の濃い研究を行います。複数の専門演習(ゼミ)を選んで、多面的にテーマに接近することも可能です。

専門科目
それぞれの関心や将来設計に応じて、さまざまな専門科目が受講できます。

教員一覧 (五十音順)

教授 青木 信之 Nobuyuki AOKI	副学長 英語教育学	准教授 池田 寛子 Hiroko IKEDA	アイルランド文学	講師 猪口 純路 Junji INOBUCHI	マーケティング論 流通システム論	教授 宇野 昌樹 Masaki UNO	語学センター長 中東研究
教授 赤星 晋作 Shinsaku AKAHOSHI	教育経営学	准教授 板谷 大世 Taisei ITAYA	東南アジア政治	教授 岩井 千秋 Chiaki IWAI	応用言語学	教授 Ulrike WÖHR	日本学 女性学
准教授 池田 慎太郎 Shintaro IKEDA	日本政治外交史	教授 井上 泰浩 Yasuhiro INOUE	マスメディア学	講師 岩田 一成 Kazunari IWATA	日本語教育学	教授 大井 健二 Kenji OI	美術史学 芸術学



複数のプログラムの履修が可能

プログラムは1つに限定せず、各自の関心や将来目標に応じて複数履修することが可能です。各プログラムの科目は、互いに関連しあっているため、複数のプログラムを組み合わせることで、理解の深まり、より高度な知識の修得が期待されます。また、より広く深く学ぶことによって、専門性プラスアルファの視点・考え方を身につけることができます。

プログラム履修の認定

1プログラムにつき、最低36単位を修得することによって、プログラム履修の認定が与えられます。この領域認定は、就職時等において高評価につながるものと考えられます。

4
年次

卒論演習

卒業論文作成、また卒業後に向けて、温もりのあるサポートをします。教員1人に平均2人のゼミ生。

卒業論文

総合的かつ多面的に履修してきた一人ひとりが見出したテーマが、統一の視点によって明らかになります。



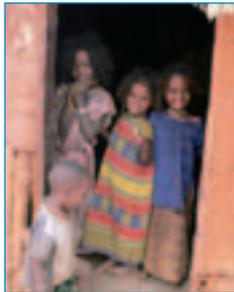
国際政治・平和プログラム

現代の国際社会には、紛争、テロ、難民、開発、環境などの様々な地球規模の課題があります。これらの問題を理解し、解決方法を見出すための鍵となる国際関係の理論や歴史、そして平和研究の方法や実践について一緒に学びましょう。



公共政策・NPOプログラム

望ましい社会を創造するために、人びとの生活の基礎である経済や社会のあり方について学びましょう。私たち、市民、NPO(非営利組織)、政府などの果たす役割や協力し合う仕組みを考えましょう。社会のために働きたい方を歓迎します。



多文化共生プログラム

世界は新たな発見に満ちた知のフィールドです。国家・地域・民族・文化の垣根を乗り越え、多様な考え方をもつ人々と「共に生きる」を合い言葉に、文化的対話の方法や可能性について理論と実践の両面から学びましょう。



言語・コミュニケーションプログラム

言語(日本語、外国語)を基本とするコミュニケーション上の諸問題(社会問題、外国語教育・政策、言語比較、異文化理解など)について学ぶと同時に、外国語の実践能力の養成を重点的に行います。外国語学習に関心のある方を歓迎します。



国際ビジネスプログラム

これまでの経営学や経済学の領域で捉えられてきた問題を、国内的・国際的な幅広い視野と、文化的・社会的・政治的環境との相互関係において捉え、問題発生の予防にもつながる総合的な解決ができる問題解決型の学生を育みます。

International Studies

Information Sciences

Art

Art

Art

Art

Art

Art

Art

教授 太田 育子 Ikuko OTA 国際法	教授 大庭千恵子 Chieko OBA 国際関係史 南東欧現代史	教授 加藤 千代* Chiyo KATO 中国民俗学 口承文芸研究	准教授 吉 沅洪 Yuanhong JI 臨床心理学	教授 佐藤 深雪 Miyuki SATO 日本文学
教授 大東和武司 Takeshi OHTOWA 学部長 多国籍企業論	准教授 柿木 伸之 Nobuyuki KAKIGI 哲学	教授 上村 直樹 Naoki KAMIMURA アメリカ政治外交 国際政治学	准教授 金 泰旭 Taewook KIM 国際経営論	准教授 潮崎 智美 Tomomi SHIOSAKI 国際会計学
准教授 大野 亜由未 Ayumi ONO 比較教育学	准教授 金谷 信子 Nobuko KANAYA 非営利組織論	講師 城多 努 Tsutomu KITA 財務管理論	准教授 金 栄鎬 Yeongho KIM 現代朝鮮半島政治 比較政治学 国際政治学	講師 瀧 俊毅 Junyi SHEN 環境経済学 経済統計学

*の教員は平成20年度末に退職の予定です。

5つのプログラムが互いに関連しあう、ユニークな

国際政治・平和プログラム

科目群

国際関係論/国際関係史入門/国際法/国際協力論/国際社会論
 国際安全保障論/国際政治学/比較政治体制論/民族国家論/開発政治論
 平和研究入門/平和研究/国際人権法/紛争解決論/国際機構論
 国際関係史/日本政治特論/東北アジア政治論/アメリカ政治論
 ヨーロッパ国際政治特論/ロシア・東欧政治特論/東南アジア研究

比較政治体制論 (Omar FAROUK 教授)

さまざまな国の政治制度を比較することにより、国際政治、ひいては現在の世界が見えてきます。例えば民主主義の概念。国によって憲法の成り立ちも異なれば、とらえ方や権利の理解もまちまちです。それぞれの国の歴史、文化、政治などの背景を踏まえながら比較し、また日本における民主主義についても考察を深めグローバル化の本質に迫ります。



公共政策・NPOプログラム

科目群

公共政策・NPO入門/国際経済学入門/ミクロ経済学/マクロ経済学
 非営利組織論/経済統計学/財政学/金融論/現代社会と法/比較法制度
 経済政策論/交通論/現代日本経済論/日本経済発展史/組織の経済学
 開発と環境/スポーツ文化経営論/健康心理学/教育経営学/比較教育論
 アメリカ教育論/政治と経済/地域政策論

開発と環境 (中島 正博 教授)

人間と自然が共生していくためには、私たちの世界観を問い直す必要があります。授業では、自然や人間の生命を大切にできる世界観を基に、人間と自然が共生する可能性や条件を考えます。また、今後の「開発と環境」のビジョンとして、市民の共同行為に焦点を当て、それが公共を支える可能性について論じます。



多文化共生プログラム

科目群

多文化共生入門/地域研究入門/テキスト分析法/フィールドワーク技法
 比較文化論/比較民族学/音楽人類学/エスニシティ論/ジェンダー論
 異文化間交渉論/文化交流史/社会文化思想史/共生の哲学
 マスメディア論/労働と社会/メディア・リテラシー/日本文化史/イギリス文化論
 中国文化論/日本研究/東アジア研究/アラブ研究
 アメリカ文化論/ラテンアメリカ研究/アフリカ研究/美術史/美学

ジェンダー論 (Ulrike WÖHR 教授)

「男らしさ」「女らしさ」って何でしょう。この授業は、社会的・文化的につくられた「性差」について、これまでの自分の経験や歴史・映画・美術などを通して意識することから始まります。男女それぞれの立場からも考え、「性差」を時代の流れや文化によって異なるものとしてとらえることによって、多様なものの見方を養っていきます。



言語・コミュニケーションプログラム

科目群

言語・コミュニケーション研究入門/社会言語論/応用言語論/日本語学・日本語教育学
 翻訳論/言語比較論/通訳技法論/コミュニケーション技法論
 Cross-cultural Language and Communication/フランスの文学と文化
 イギリスの文学と文化/英語学概論/英文法論/英米文学概論
 英米文学特講/英文構成法/英語コミュニケーション/英語聴解法/時事英語

言語比較論 (樂 竹民 教授)

外国語の習得には母語（日本語）についての理解は不可欠です。日本語はどのような言語なのか、日本の社会・文化とどう関わっているのか…。中国から漢字が日本にどのように伝わり、変化し、日本語化してきたかを中国と日本の歴史などを関連させながら追究し、これから日本語がどのように発展していくかを考察していきます。



国際ビジネスプログラム

科目群

国際ビジネス入門/国際経営論/マーケティング論
 経営史/多国籍企業論/財務管理論/簿記論/会計学/公会計論
 国際会計論/経営組織論/企業行動論/国際金融論/国際貿易論
 国際ビジネス法務/人的資源管理論/テクノロジーマネジメント

多国籍企業論 (大東和 武司 教授)

私たちが身近に接している多くの企業が今日では自国だけでなく、他の国に生産拠点をもち多国籍企業として活動しています。多国籍企業を取り巻いている文化、政治、経済環境などの影響を踏まえながら、外国に工場を設置するメリット、文化や習慣の違いへの対応、複数国での社会貢献など、単なる国内経営とは異なる経営を考えてみましょう。



教員一覧

(五十音順)

准教授 鈴木 健人 国際政治学
Taketo SUZUKI 米国外交史
安全保障論

准教授 高橋 広雅 経済政策論
Hiromasa TAKAHASHI

教授 寺田 英子 地方財政学
Hideko TERADA 交通・公益事業論

教授 中島 正博 環境・資源管理論
Masahiro NAKASHIMA 国際開発論

教授 関村 誠 美学
Makoto SEKIMURA 哲学

准教授 田川 玄 アフリカ研究
Gen TAGAWA 人類学

准教授 土井 悠子 イギリス文学
Yuko DOI

准教授 野崎 亜紀子 法哲学
Akiko NOZAKI 生命倫理

准教授 曾根 幹子 体育経営管理学
Mikiko SONE 生涯スポーツ論

教授 塚田 健一 民族音楽学
Kenichi TSUKADA 音楽人類学

教授 富永 憲生 日本経済論
Norio TOMINAGA 日本経済発展史

准教授 東野 篤子 国際関係論
Atsuko HIGASHINO ヨーロッパ統合論

科目群

5つのプログラムは、それぞれ単独で展開されながらも相互に関連しあっており、プログラムの枠を越えて興味ある科目を履修することによって、多角的・複眼的視点で専門領域を捉え、学ぶことができます。



国際協力論 (吉田 晴彦 准教授)

国際協力とは、なぜ、何を、誰が行うものなのでしょう。そこにどのような問題があるのでしょうか。それらについて、社会科学という視点から考えていきます。講義は、単なる知識を提供する場としてではなく、メーリングリストなどを利用して、議論を重ね、理解を深めることに重点を置いて進めていきます。



国際研究特講

HIROSHIMA and PEACE
Advanced HIROSHIMA and PEACE
企業インターンシップ
学校インターンシップ



経済政策論 (高橋 広雅 准教授)

二人以上の人間が互いに影響を及ぼしながら行動する状況をゲーム的狀況と呼びます。例えば学生と教員の関係、友人関係、相性のよくない人との接し方など。このゲーム的狀況で人々はどのように行動し、その結果としてどんなことが起こるかについて体系的に学ぶとともに、どのような政策が望ましいかについて考えていきます。



プログラム横断科目

これらの科目の特色は、プログラムの枠を超え、新しい課題に接近するとともに、行動力や実践力を磨くことです。具体的には、海外10カ国以上の学生とともに英語で学び討論する「HIROSHIMA and PEACE」(20頁参照)や、企業や学校などの現場で実際に自分の力を試し磨く「企業インターンシップ」「学校インターンシップ」などがあります。これらの科目を通して、異なるプログラムで学んだ知識を関連付けて理解し、問題解決への意志と行動力を身につけることが期待されています。



エスニシティ論 (宇野 昌樹 教授)

ますますグローバル化が進む現代において相互理解は不可欠であり、その起点となる“自分たちは何なのか”が強く問われています。自分のアイデンティティを追求することは、自己理解であり、他者理解への第一歩。そのためにも正しい歴史観を学び、自己を通して世界をとらえ、さまざまな角度からその情勢を考えていきましょう。



社会言語論 (Carol RINNERT 教授)

例えば日本語においても広島、博多、沖縄など地域によって、表現やイントネーションが異なります。アメリカ英語においても男女でニュアンスが違って来る場合があります。ビデオ等で実際の違いを聞き比べながら、あるいは各地域の言葉をリサーチ・比較し、ディスカッションしながら私たちの言葉がどのように構築されているのか学んでいきます。



国際金融論 (二村 英夫 教授)

経済の自由化、グローバル化が進み、巨額のマネーが国境を越え、ネットワークを通じて取り引きされています。また円とドル、円とユーロなど通貨同士の交換も活発です。こうした国際金融の仕組みや市場取引にはリスクが伴うこと、またリスクを回避するにはどんな方法があるかを具体例をあげながら一緒に考えていきます。



教授 Omar FAROUK 比較政治学

准教授 山口 光明 Mitsuki YAMAGUCHI 健康心理学

准教授 吉江 貴文 Takafumi YOSHIE 文化人類学

教授 Carol RINNERT 言語学 社会言語学

教授 二村 英夫 Hideo FUTAMURA 国際金融論 金融論

教授 湯浅 正恵 Masae YUASA 国際政治経済学

准教授 吉田 晴彦 Haruhiko YOSHIDA 国際関係論

教授 Christian LE DIMNA 現代フランス文化 異文化交流

教授 Yulia MIKHAILOVA 日本思想史 日露関係史

教授 横山 知幸 Tomoyuki YOKOYAMA 翻訳論

教授 樂 竹民 Zhumin LUAN 日本語学

准教授 渡辺 智恵 Tomoe WATANABE 英語教育学

英語力

CALL英語集中

実践的な英語力を鍛える



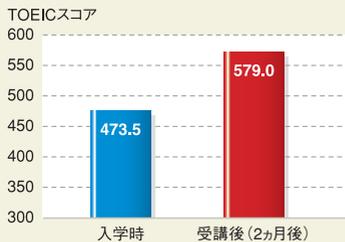
語学センターや情報処理センターのコンピュータを用い、1年次は英語のリスニング、リーディング、文法を集中的に訓練し、2年次はそれらに加え、スピーキングやライティングで使える英語表現を徹底的にインプットします。通常の授業のように教員が週1回授業をするといった形態を取らず、指定された期間中（約2ヵ月間）、自分の都合のよい時間に自分に合ったペースで学習を行います。学習の開始前と終了後にTOEIC IPテストを受験し、英語力及び学習効果を客観的に測定します。国際社会で活躍していくために必要不可欠な英語力を確実に高めていきます。



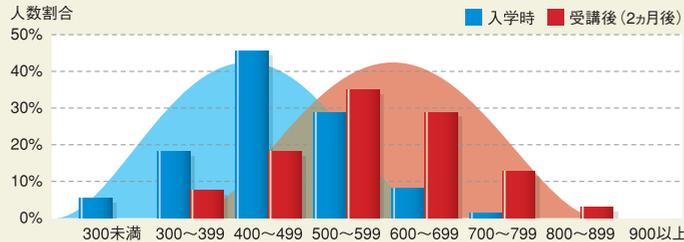
このプログラムは、広島市内の「まちづくり市民交流プラザ」で市民にも開放されており、これまでに延べ約900名が受講。TOEICへの挑戦をはじめ、生涯学習の場として活用されています。

効率的な学習でTOEICスコアアップ!

履修者のTOEICスコア平均の推移



履修者のTOEICスコア帯別人数分布



左のグラフは、「CALL英語集中」履修者のTOEICスコア平均の推移とスコア帯別人数の分布を示したものです。入学時に比べ、受講後のスコアは105.5点アップし、579.0点に伸びています。スコア帯別人数分布についても、受講後は分布がスコアの高い方に移動しており、英語力が大きく底上げされていることがわかります。TOEIC運営委員会発行の『TOEIC テストDATA & ANALYSIS 2004』によると、全国の大学1年生のTOEICスコア平均は387点ですが、国際学部1年生のTOEICスコアは、入学時点ですでに大学1年生の平均を大幅に上回っています。また、全国の大学4年生の平均スコアは492点、企業が新入社員に期待するスコアは400~500点とされていますが、国際学部1年生は前期終了の時点でこれらのスコアを大きく上回る学習成果をあげています。

英語教育がさらに進化

徹底した訓練の「CALL英語集中」と能力別少人数の「英語応用演習」

1、2年生対象の英語教育が平成19年度4月より大きく変わりました。ネットワークを利用した「CALL英語集中」で、リーディングとリスニングを中心とした英語の訓練を毎日受けるとともに、1クラス平均15名という、大学共通教育としては異例の少人数クラス「英語応用演習」で、徹底したスピーキングとライティングの指導を受けます。また「英語応用演習」では、クラスを能力別とし、それぞれのレベルに適したシラバスとテキストできめ細かい指導が行われます。

多言語力

国際学部では、英語以外に8ヵ国語にもおよび外国語科目を設けています。これは、世界を多角的にとらえ、文化の多様性と共生の必要性を認識した国際人の養成を目的にしているからです。1、2年生における外国語学習だけでなく、3、4年生においても深い地域研究と外国語学習の継続の道が開かれています。

豊富な外国語科目とネイティブ教員による授業

ドイツ語	フランス語	中国語
ハンガール	ロシア語	アラビア語
スペイン語	イタリア語*	日本語**

*国際学部では卒業単位には含まれない。 **主に留学生を対象とする。

グローバルな視野を養い可能性を広げる



国際力

Intensive Summer Course HIROSHIMA and PEACE

世界の学生と英語で広島を学び、平和を考える

2003年から始まった夏期集中講座HIROSHIMA and PEACEは、世界中の学生が一堂に集い、知的な「楽しさ」を感じながら自分たちで学ぶPeace Studies（平和研究）です。どうすれば平和を実現できるのか、核兵器の問題点は何か、世界で起きている問題の解決について、幅広い視点から学びディスカッションすることによって、さまざまな国の人の考え方を共有し、また新たな考え方を発信していくことを目的としています。UNITAR国連訓練調査研究所の広島事務所見学や8月6日の平和記念式典への参加など、広島ならではの体験学習も多彩に用意され、2007年は、アメリカ、イギリス、中国、ハンガリーなど11ヵ国29人の外国人学生が参加しました。これまで、延べ24ヵ国の学生が参加しました。ハワイ大学とロンドン・メトロポリタン大学では正式な授業として単位が認められています。海外の学生とともに2週間近くすべての授業を英語で受講し語り合い、パーティーなどの楽しい時を過ごすことは、国際交流を体験する貴重な機会となるでしょう。



詳しいプログラム内容などはホームページをご覧ください。 www.hiroshima-cu.ac.jp/Hiroshima-and-Peace/index.htm



Preliminary English Training (PET) Program



H&P本番に向けた英語討論能力の強化

HIROSHIMA and PEACEの国際学部受講生は、H&P本番前に約3ヵ月間の事前英語研修（PET）プログラムを受講。チームティーチングによる徹底した指導で、英語の討論能力、表現力、それに広島や原爆、平和問題について英語で発信できる能力を高めます。H19・20年度はPET期間中に1泊2日の英語漬け研修（English Only Village）を実施（写真左）、「ひろしま」紹介ビデオの作成、討論会、英語によるレクリエーションなどを行いました。PETプログラムの「共通語」は英語のみ、短期間の集中研修ながら参加者のH&P参加意欲と連帯意識を高め、本番に向けて確実なスキルアップにつながっています。

情報科学部

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/org/info/index.html>

情報科学の基礎をバネに
学びを究める、可



めざすは高度情報化社会をリードする先端技術者・研究者

知能工学科3年 小嶋 瑤子、情報機械システム工学科4年 定森 健悟・岩本 由香 (写真左から)

Information Sciences

時代の変化に対応する3学科6コース 入学後、進路を決める学部一括入試

情報科学部では学部一括入試を行っており、全学生は2年次前期まで学部共通科目を通して情報科学の基礎を学びながら、自分の進路を探ります。その後、各自の希望や適性をもとに3学科に分かれ、6コースのカリキュラムからさらに専門知識や技能を学んでいきます。

求める人物像 Admission Policy

情報科学は進歩のスピードが大変速く、世界的な競争も激しい分野です。したがってこの分野に携わる人は、たゆまぬ向上心をもって新しい考えを追究し続ける必要があります。情報科学部は、この分野で自分の適性を見つけ、十分な学力や技術力を身に付けて、科学技術の進歩に貢献することを目指す気概のある学生を求めています。具体的には次の条件を満たす学生を募集しています。

- 1 自分から進んで問題を発掘し解決する意欲を持つ学生
- 2 情報科学の基礎である数学・理科・語学が得意な学生
- 3 知的な好奇心に富み、探究心がおう盛な学生

1年次	
前期	後期
■学部総合科目 情報物性工学 I・II、生体センサ	
■学部共通科目 解析学 I・II、線形代数 I・II、離散数学、 数学演習 I・II、情報代数、確率統計、情報基礎数学、 幾何学概論、常微分方程式、プログラミング I・II・III、 プログラミング演習 I・II・III、コンピュータ基礎、 データ構造とアルゴリズム I・II、技術者倫理、情報科学 情報工学概論、知能工学概論、システム工学概論、 オートマトンと形式言語、論理回路、電気回路、物理学、 情報科学基礎実験 I・II・III・IV	
■全学共通系科目・外国語系科目・資格取得科目	

可能性を拓く。

あらゆる領域で 先端的なICT環境を道具として 活用できる能力を養成

情報科学部は、教育・研究内容および育てる人物像をより明確にするために、2007年度から学部構成を3学科6コースに再編し、新たなスタートを切りました。さらに情報科学の知識と技術を自然科学と融合させることによって新しい可能性を拓いていくために学部総合科目を導入。情報通信技術（ICT）の専門的な知識をベースにICT環境を道具として活用し、より学際的に活躍できる人材の育成をめざしています。また、民間企業出身の教授陣が多いのも情報科学部の特徴のひとつです。企業での経験を踏まえ、柔軟な発想と豊かな創造力をもって指導に当たるとともに、学生が就職後にそれぞれの企業目的に添って仕事ができるように研究テーマも工夫。社会の多様なニーズに、情報技術のめまぐるしい進歩に、しなやかに対応できる能力の修得に努めています。

情報科学部長 佐野 学 Manabu SANO



4年間という大学生の期間は、体力、知力、気力など、全ての面で人生における最高の時期であると思う。この期間をいかに過ごすかによって、その人の一生が決まると言っても過言ではありません。もう一度人生をやり直すことができるとするならば、私はためらわず大学入学時点へもどることを選ぶでしょう。やるべきことやりたいことは山ほどある。自由に使える時間も山ほどある。何に束縛されることもない。皆さんには、優秀な教授陣が揃い、最新の設備、環境の整った本学でかけがえのない青春のこの時を、精一杯、充実して過ごしてほしい！



	2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
工学、電子光デバイス、電気磁気学、光エレクトロニクス、電気・電子材料、集積回路、機能性材料 など						
序説、	情報工学科	コンピュータコース	コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、システムLSIなどを学びます。			
		ネットワークコース	インターネット、モバイル通信、ユビキタス情報ネットワークなどを学びます。			
	知能工学科	知能ソフトウェアコース	人工知能、データマイニング、ヒューマンインタフェースなどを学びます。			
		知能メディアコース	パターン認識、画像処理、コンピュータグラフィックスなどを学びます。			
	システム工学科	制御・メカトロニクスコース	最適制御、メカトロニクス、ロボティクスなどを学びます。			
		通信・インタフェースコース	デジタル通信、組み込みソフトウェア、システムインタフェースなどを学びます。			

進路については P.51

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状(情報,数学)
- 博物館、美術館などの学芸員

情報工学科

コンピュータコース/ネットワークコース

市大 **POWER OF HIROSHIMA CITY UNIVERSITY**

次世代を見据えた情報環境の創造をソフト&ハードの



情報工学科では、コンピュータとネットワークに関するハードウェア技術およびソフトウェア技術を広範囲に教育・研究します。これらの技術をベースに、コンピュータとネットワークの融合技術、情報環境に対応できる人材の育成を進めます。

各モバイル端末が端末そのものの機能だけでなくデータ中継機能の役割も果たし、無線だけでネットワークを構成するアドホックネットワーク。ネットワークソフトウェア研究室では、この情報技術を活用した子どもの見守りシステムを自治体・通信事業者・電力会社等と共同で開発し、実用化に向けた研究を進めています。

教育課程

1年次		2年次		3年次		4年次		
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
学部総合科目 ※P31								
学部共通 ※P23		<ul style="list-style-type: none"> ■ネットワーク設計 I ■ネットワーク設計 I 演習 ■コンピュータシステム I ■論理設計 ■論理設計演習 ■ディジタル信号処理 ■電気回路応用 ■情報ネットワーク ■通信方式 ■プログラミング言語 ■コンパイラ ■データベース 	<ul style="list-style-type: none"> ■ネットワーク設計 II ■ネットワーク設計 II 演習 ■コンピュータシステム II ■LSI設計演習 I ■ワイヤレスネットワーク I ■情報理論 ■オペレーティングシステム ■ネットワークプロトコル ■情報と職業 ■数値計算プログラミング ■電子回路 ■最適化アルゴリズム ■分散システム ■外書講読演習 I ■情報工学実験 I 	<ul style="list-style-type: none"> ■アーキテクチャ ■ソフトウェア工学 ■マルチメディア通信 ■LSI設計演習 II ■ワイヤレスネットワーク II ■並列コンピュータ ■システムLSI設計 ■CADシステム ■ネットワークソフトウェア演習 ■プロトコル設計 ■信号設計論 ■外書講読演習 II ■情報工学実験 II 	<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信法規 ■知的財産権 	<ul style="list-style-type: none"> ■プレゼンテーション技法 	<ul style="list-style-type: none"> ■インターンシップ ■技術文書作成法 ■卒業研究 I・II 	
全学共通プログラム・外国語系科目 ※P10								

両側面から追究

コンピュータコース

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアなどに関する基礎的な知識を学び、システムソフトウェア、システムLSI、組み込みシステムなどの高度情報社会を支える情報システム、および新しいコンピューティング環境に対応できる人材を育成します。

情報工学実験Ⅰ・Ⅱ

ハードウェア記述言語を用いた設計



複雑な論理回路もスマートに設計

コンピュータコースの実験には、専用の言語を用いてハードウェアを設計する課題があります。昔は、論理素子間の接続関係を一つずつ記述して論理回路の設計をしていました。現在では、動作させたい機能を人間に分かりやすい言語で記述することで、設計できるようになりました。このようなシステムを実際に使用し、設計した回路を簡単に実装できるFPGAという素子を用いて、論理回路を設計する実験を行っています。

ネットワークコース

インターネット、モバイル通信、デジタル放送などに関する基礎的な知識を学び、いつでもどこでも利用可能なユビキタスネットワークなどの情報ネットワーク、および次世代のメディア協調型情報ネットワーク社会に対応できる人材を育成します。

情報工学実験Ⅰ・Ⅱ

IP技術の基礎



情報通信技術の高度化をめざす

最近、ICT（情報通信技術）革命という言葉をよく耳にします。この実験では、ICTを支えている中心技術の一つであるIP（Internet Protocol）技術の基礎を学びます。具体的には、PC UNIXの導入、IPパケットの観測、DNS（Domain Name System）の設定、ネットワークセキュリティ確保の基礎、静的および動的ルーティング、WWWサーバーの設定などを行います。

論理回路システム研究室



コンピュータの基礎理論を基に最先端の課題を研究

パソコンや携帯電話、液晶テレビ、ゲーム機など、一つひとつはまったく違う製品も、実は一つの理論から作られているのです。それを論理回路システムと言います。研究室ではその論理回路システムに関する理論とLSI設計技術を基礎として、最先端の研究課題に取り組んでいます。

情報ネットワーク研究室



通信衛星を使って高速インターネット通信を実現

広域性や耐災害性等の特徴を持つ通信衛星は、衛星さえ見通すことができれば陸上・海上に関わらず、いつでもどこからでもアクセス可能。研究室では、テーマの一つとして、衛星を利用したインターネット通信の高速化を実現する技術を研究。また、超高速インターネット衛星を使った実験を予定しています。

教員一覧

教授	石田 賢治 Kenji ISHIDA	情報ネットワーク
教授	井上 智生 Tomoo INOUE	ディペンダブル コンピューティング
教授	角田 良明 Yoshiaki KAKUDA	ネットワークソフトウェア
教授	北村 俊明 Toshiaki KITAMURA	情報処理センター長 プロセッサアーキテクチャ
教授	前田 香織 Kaori MAEDA	コンピュータ・ネットワーク
教授	弘中 哲夫 Tetsuo HIRONAKA	計算機アーキテクチャ
教授	吉田 彰顕 Teruaki YOSHIDA	情報通信 電波サイエンス
教授	若林 真一 Shinichi WAKABAYASHI	副学長 論理回路
准教授	市原 英行 Hideyuki ICHIHARA	VLSI設計自動化
准教授	高野 知佐 Chisa TAKANO	ネットワーク性能評価
准教授	高橋 賢 Satoshi TAKAHASHI	無線通信 ネットワークシステム
准教授	高橋 隆一 Ryuichi TAKAHASHI	論理設計方法論 学習デザイン
准教授	西 正博 Masahiro NISHI	通信工学 電波サイエンス
准教授	Rolf ADAMS	プログラミング言語
講師	井上 博之 Hiroyuki INOUE	コンピュータ・ネットワーク
講師	大田 知行 Tomohiro OTA	ネットワークソフトウェア
講師	上土井陽子 Yoko KAMIDOI	論理回路学
講師	川端 英之 Hideyuki KAWABATA	システムソフトウェア
講師	永山 忍 Shinobu NAGAYAMA	論理設計
講師	舟阪 淳一 Junichi FUNASAKA	ネットワークソフトウェア
助教	稲木 雅人 Masato INAGI	VLSI設計自動化
助教	井上 伸二 Shinji INOUE	ネットワークソフトウェア
助教	小畑 博靖 Hiroyasu OBATA	通信プロトコル 衛星通信
助教	窪田 昌史 Atsushi KUBOTA	システムソフトウェア
助教	河野 英太郎 Eitaro KONO	情報ネットワーク
助教	児島 彰 Akira KOJIMA	システムソフトウェア
助教	新 浩一 Kouichi SHIN	電波サイエンス 情報工学
助教	谷川 一哉 Kazuya TANGAWA	計算機アーキテクチャ
助教	吉川 祐樹 Yuki YOSHIKAWA	論理設計とテスト

知能工学科

知能ソフトウェアコース／知能メディアコース

市大 **POWER OF**
HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

人間の知的なコミュニケーション&情報行動を支援す



知能工学科では知識基盤社会における人間の知的なコミュニケーション行動や情報行動を支援する高度な知能情報システムの技術者および研究者を育成するために、知能ソフトウェアコースと知能メディアコースの2コースを設置しています。また、両コースに共通な教育として、コンピュータグラフィックス、データベース、デジタル信号処理、感性情報処理、最適化理論、情報理論、計算幾何学、数理論理学、グラフ理論概論、確率統計などが開設されています。

知能工学研究室ではバーチャルリアリティの技術を用いた先進的学習支援システムを研究。装置（反力デバイス）を通して実際の力を感じながら、てこや滑車の題材などを用いて初等力学の学習を行うことができ、より現実世界の実験室に近い状態で学ぶことができます。

教育課程

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学部総合科目 ※P31							
学部共通 ※P23		<ul style="list-style-type: none"> ■コンピュータグラフィックス I ■グラフ理論概論 ■数理計画法 ■計算幾何学 ■計算論 ■数理論理学 ■情報ネットワーク ■オペレーティングシステム ■データベース ■デジタル信号処理 ■数値解析 	<ul style="list-style-type: none"> ■コンピュータグラフィックス II ■情報システム ■コンパイラ ■情報セキュリティ ■情報理論 ■記号処理プログラミング ■アルゴリズム論 ■情報と職業 ■人工知能 ■ヒューマンコンピュータインタラクション ■画像情報処理 ■知能工学実験 I 	<ul style="list-style-type: none"> ■最適化理論 ■感性情報処理 ■デジタル制御 ■技術英語 I ■データマイニング ■機械学習 ■情報検索 ■パターン認識 ■自然言語処理 ■知能工学実験 II 	<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信法規 ■知的財産権 	<ul style="list-style-type: none"> ■プレゼンテーション技法 	
				■インターンシップ		■技術英語 II ■技術文書作成法 ■卒業研究 I・II	
全学共通プログラム・外国語系科目 ※P10							

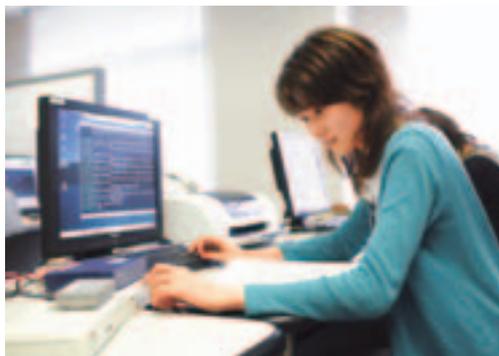
るシステムを構築

知能ソフトウェアコース

知識情報処理に必要な人工知能、データマイニング、機械学習、ヒューマンコンピュータインタラクション、知的情報検索エンジン、エージェント、発見的探索などを学び、知識基盤社会に重要な知能情報システムを開発できる人材を育成します。

知能工学実験 I・II

AI・ネットワーク実験



直感力や知恵を働かせ問題解決力を柔軟に

オセロ対戦プログラムを開発するために、人工知能(AI)の基礎技術を活かしてオセロゲームの思考部である推論プログラムを作成します。また、ネットワーク上で対戦できるよう、インターネットのハードウェアについて学ぶとともに、ネットワーク通信のプログラム作成を行っています。

知能システム研究室



自然から学んだアイデアを生かす情報処理

自然界に存在するさまざまな生物は、それぞれ優れた方法で環境に適応して活動しています。この柔軟な適応性を発揮するためのアイデアを自然界から学び、情報処理に生かす研究を行っています。例としては、生物の進化から着想された交叉や突然変異などを導入した進化的計算、鳥や昆虫の群れの行動から着想された群知能などがあります。

知能メディアコース

画像、映像、幾何データ、音声、文書などのメディア情報処理に必要な画像情報処理、コンピュータグラフィックス、パターン認識、自然言語処理などを学び、知識基盤社会に重要なメディア情報処理システムを開発できる人材を育成します。

知能工学実験 I・II

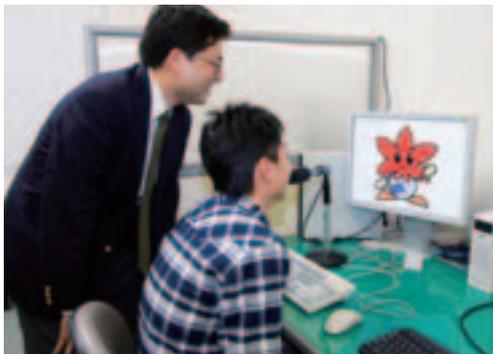
CG・コンパイル実験



想像力や知識を働かせ表現力豊かに美しく

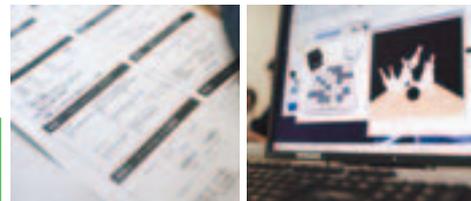
オセロゲームの盤面データをコンピュータグラフィックス技術(CG)により個性豊かに美しく表現します。知能工学実験Iで開発した推論、通信プログラムと統合して、オセロ大会でプログラム同士を対戦させます。また、プログラミング言語の変換をするプログラム(コンパイラ)の作成も行っています。

言語音声メディア工学研究室



人間の言語で自然に使えるコンピュータを目指して

日常的なコミュニケーションで自然に使われている言語や音声を用いてコンピュータとの情報のやり取りを実現する技術を中心に研究。音声に含まれる言語情報をテキストに変換する音声認識技術、大規模な文書集合から必要な情報を言語で検索したり加工したりする技術、感情情報処理に基づく円滑な対話を実現する技術などに取り組んでいます。



教員一覧

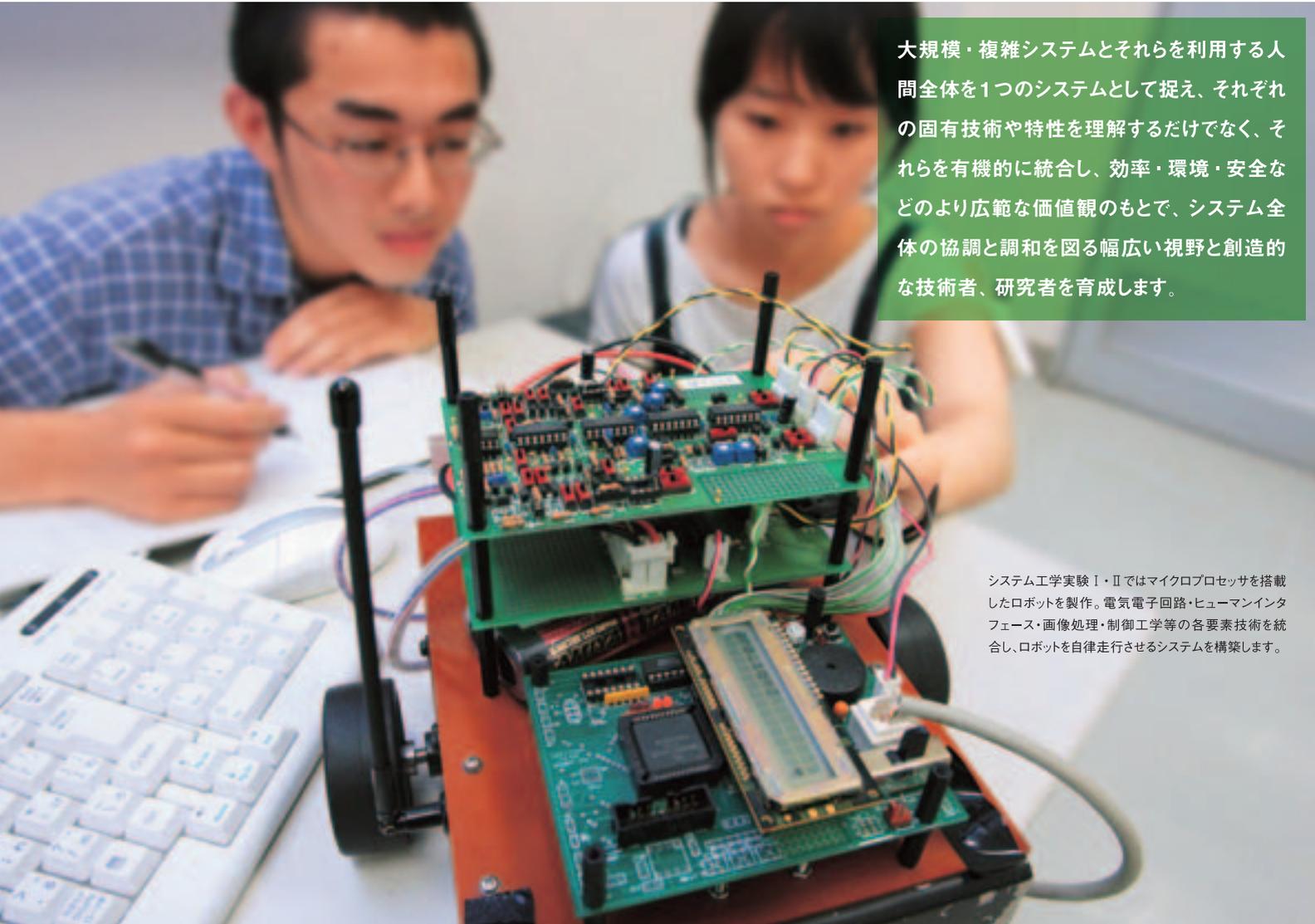
教授	浅田 尚紀 Naaki ASADA	学長 コンピュータビジョン
教授	北上 始 Hajime KITAKAMI	AIとデータ工学
教授	高橋 健一 Kenichi TAKAHASHI	機械学習
教授	高濱 徹行 Tetsuyuki TAKAHAMA	自然コンピューティング
教授	林 朗 Akira HAYASHI	パターン認識
教授	松原 行宏 Yukihiko MATSUBARA	知識工学
教授	竹澤 寿幸 Toshiyuki TAKEZAWA	音声言語情報処理
准教授	岩根 典之 Noriyuki IWANE	知識工学
准教授	内田 智之 Tomoyuki UCHIDA	データマイニング 機械学習
准教授	黒木 進 Susumu KUROKI	マルチメディアデータベース
准教授	末松 伸朗 Nobuo SUEMATSU	パターン認識 機械学習
准教授	三村 和史 Kazushi MIMURA	数理工学
准教授	宮原 哲浩 Tetsuhiro MIYAHARA	機械学習 データマイニング
准教授	棕木 雅之 Masayuki MUKUNOKI	メディア情報処理
講師	青山 正人 Masahito AOYAMA	医用画像診断支援 文書理解
講師	市村 匠 Takumi ICHIMURA	ソフトコンピューティング
講師	上田 祐彰 Hiroaki UEDA	学習システム
講師	田村 慶一 Keiichi TAMURA	並列処理 データ工学
講師	馬場 雅志 Masashi BABA	コンピュータグラフィックス
講師	難波 英嗣 Hidetatsu NANBA	自然言語処理
講師	原 章 Akira HARA	進化的計算論
講師	古川 亮 Ryo FURUKAWA	コンピュータビジョン CG
助教	岩田 一貴 Kazunori IWATA	数理工学
助教	岡本 勝 Masaru OKAMOTO	知識工学 学習システム
助教	黒澤 義明 Yoshiaki KUROSAWA	発話意図理解
助教	鈴木 祐介 Yusuke SUZUKI	データマイニング 機械学習
助教	目良 和也 Kazuya MERA	感情情報処理 対話理解
助教	森 康真 Yasuma MORI	知識情報処理

システム工学科

制御・メカトロニクスコース／通信・インタフェースコース

市大 **POWER OF**
HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

人間・コンピュータ・情報システムの調和を図りユビキ



大規模・複雑システムとそれらを利用する人間全体を1つのシステムとして捉え、それぞれの固有技術や特性を理解するだけでなく、それらを有機的に統合し、効率・環境・安全などのより広範な価値観のもとで、システム全体の協調と調和を図る幅広い視野と創造的な技術者、研究者を育成します。

システム工学実験Ⅰ・Ⅱではマイクロプロセッサを搭載したロボットを製作。電気電子回路・ヒューマンインタフェース・画像処理・制御工学等の各要素技術を統合し、ロボットを自律走行させるシステムを構築します。

教育課程

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学部総合科目 ※P31							
学部共通 ※P23		<ul style="list-style-type: none"> 電子回路Ⅰ コンピュータグラフィックスⅠ メカトロニクスⅠ 偏微分方程式 応用幾何学 情報ネットワーク 情報理論 制御工学 電気電子計測 ソフトウェア工学概論 	<ul style="list-style-type: none"> 電子回路Ⅱ コンピュータグラフィックスⅡ メカトロニクスⅡ ロボティクスⅠ 通信工学Ⅰ 最適化手法 情報セキュリティ概論 ソフトコンピューティング 情報と職業 現代制御理論 人間工学 オブジェクト指向技術 外書講読演習Ⅰ システム工学実験Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 情報応用代数 パターン認識 数値計算法 ロボティクスⅡ 通信工学Ⅱ マルコフ決定過程 デジタル制御 協調設計とリアルタイム処理 ヒューマンインタフェース 	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信法規 知的財産権 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション技法 	
				インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> 外書講読演習Ⅱ システム工学実験Ⅱ 		<ul style="list-style-type: none"> 技術文書作成法 卒業研究Ⅰ・Ⅱ
全学共通プログラム・外国語系科目 ※P10							

タス社会を実現

制御・メカトロニクスコース

デジタル家電や生産工場での制御機器、各種ロボット、福祉機器などが、より使いやすく高度な機能を発揮させるためのシステム化技術を学び、人類が快適で理想的な社会を作るための、人にやさしいシステムを開発する幅広い視野をもった人材を育成します。

システム工学実験Ⅰ・Ⅱ

ハードウェア



遠隔操作型ロボットを製作

3年次前期のシステム工学実験Ⅰでは、マイクプロセッサを搭載した遠隔操作型ロボットの製作を通して電子制御やセンシング技術を学びます。実験の終わりには生体センシングにより身体とロボットの動きを連動させ、遠隔操作により複雑なコース上をロボットに走行させるタイムトライアル競技で実験の成果を披露します。

機械制御研究室



筋肉運動を解析して、アラビア文字の学習をスムーズに

筆記体のみ、右から左に縦るといった日本人に馴染みのない形体のアラビア語は習得がとても難しいもの。そこで、書字動作の時の筋肉の動きを信号に置き換える解析や筆跡・筆順認識による書字診断支援システムを導入したアラビア文字の書字学習支援システムの開発を行っています。

通信・インタフェースコース

ネットワークで結合された大規模で複雑なシステムが、互いに協調して動作するためのデジタル通信、高信頼化、組込みソフトウェア開発などのシステム化技術を学び、ユビキタス社会を実現させることのできる幅広い視野をもった人材を育成します。

システム工学実験Ⅰ・Ⅱ

ソフトウェア



自律走行型ロボットに挑戦

3年次後期のシステム工学実験Ⅱでは実験Ⅰで製作した遠隔操作型ロボットを自律走行型ロボットに発展させます。この実験では画像処理や現代制御技術などを学びます。1年間の締めくくりはロボットにストライカーやゴールキーパの機能を与え、ロボット・サッカー・コンテストを行います。優秀なプレイヤーに仕立て上げられるかは皆さんの工夫次第です。

ロボティクス研究室



ロボットの動き(モーション)をネットワークメディアと捉える

ロボット等の実体の動き(モーション)を、従来メディアであるテキスト・音・画像・映像に次ぐ第5のメディア(モーションメディア)と捉え、その流通方式に関する研究を行っています。同時に、移動ロボット相互通信、センシング・ネットワーク、知覚情報を獲得・伝送・提示する技術、ネットワークを通じたマニピュレーション等様々な幅広いロボット要素技術の開発を進めています。

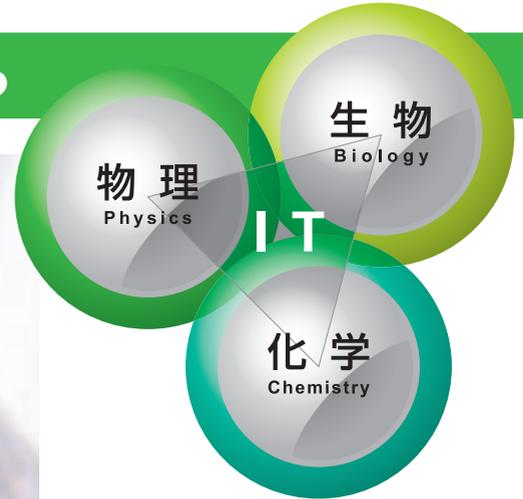
教員一覧

教授	伊藤 史朗 Shiroh ITOH	代数学
教授	岩城 敏 Satoshi IWAKI	ロボティクス
教授	大場 充 Mitsuru OBA	社会連携センター長 ソフトウェア工学
教授	小林 康秀 Yasuhide KOBAYASHI	システム制御工学
教授	佐藤 学 Manabu SATO	数理統計学
教授	佐野 学 Manabu SANNO	学部長 システム工学・制御工学
教授	中田 明夫 Akio NAKATA	組み込みシステム
教授	生岩 量久 Kazuhisa HAEIWA	デジタル放送
准教授	石光 俊介 Syunsuke ISHIMITSU	音声信号処理
准教授	小嶋 貴弘 Takahiro KOSAKI	制御工学
准教授	島 和之 Kazuyuki SHIMA	ソフトウェア工学
准教授	砂山 渡 Wataru SUNAYAMA	ウェブマイニング
准教授	関根 光弘 Mitsuhiro SEKINE	トポロジー
准教授	双紙 正和 Masakazu SOUSHI	セキュリティ
准教授	田中 輝雄 Teruo TANAKA	確率過程
准教授	藤坂 尚登 Hisato FUJISAKA	非線形回路
准教授	村田 佳洋 Yoshihiro MURATA	組合せ最適化
講師	小野 貴彦 Takahiko ONO	制御工学 人間工学
講師	齋藤 夏雄 Natsuo SAITO	代数幾何学
講師	廣門 正行 Masayuki HIROKADO	代数幾何学
助教	厚海 慶太 Keita ATSUMI	計測制御工学
助教	安 昌俊 Chang-Jun ANN	通信システム
助教	神尾 武司 Takeshi KAMIO	計算機工学
助教	川本 佳代 Kayo KAWAMOTO	教育学
助教	小作 敏晴 Toshiharu KOSAKU	機械工学
助教	齊藤 充行 Mitsuyuki SAITO	最適制御工学
助教	佐藤 康臣 Yasuomi SATO	ソフトウェア工学
助教	高井 博之 Hiroyuki TAKAI	メカトロニクス インタフェース
助教	高橋 雄三 Yuzo TAKAHASHI	人間工学
助教	疋田 真一 Shinichi HIKITA	制御工学 人間工学

学部総合科目

多彩な分野と融合。情報科学の可能性を広げる

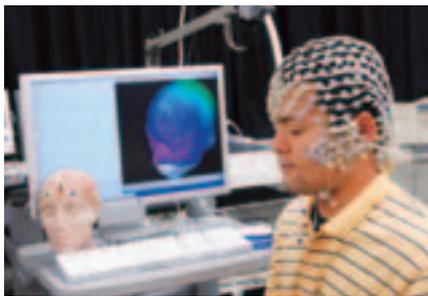
情報システムを総合的にデザインする



バイオシステム工学研究室では、バイオエネルギー、環境浄化、再資源化、色覚など、生物機能の利用をめざした研究をしています。

情報科学は他の分野と複雑に融合しながら急激な変化・拡大を見せています。こうした流れに対応し、学部総合科目では、情報科学と自然科学（物理、化学、生物）との融合領域の専門知識を習得します。最新のコンピュータ技術とそれを展開すべき産業技術に精通し、高度情報化社会で活躍できる人材の育成を目指しています。

生体理工学研究室



生体理工学研究室では、人間の脳の情報処理メカニズムに関する研究を行っています。脳活動に伴い発生する電位や磁界を計測解析することにより脳の活動部位を正確に調べることのできるシステムを開発しています。また、経頭蓋磁気刺激という手法を用いて脳の特定部位を刺激するシステムの開発を行っています。独自に開発したこれらのシステムを駆使して、“脳”という未知なるコンピュータの動作原理の解明に取り組んでいます。

集積回路デバイス研究室



コンピュータは数センチメートル角のシリコン片上に集積した数千万のトランジスタ（集積回路）によってできています。研究室では、一つひとつのトランジスタを測定、解析し、そのデータを自然現象の法則に則って予測したトランジスタの特性と照合。予測とは異なる結果に対して、どこにその問題があるかを追究、解明し、自然現象を機能デバイスとして利用するための研究に活用しています。

情報物性工学研究室



高機能・高性能な情報処理機器や通信機器も半導体などの材料からなるデバイスの集積化によって構成されています。この半導体材料の光学的、電気的性質などの物性を調べ、それらの性質に関わる新材料・新デバイスについて研究しています。具体的には、混在する回路を一体化し、コンパクトで安心、安価な半導体を実現するシリコンを使った半導体の製作、評価に取り組み、新しいデバイスに応用できる基礎技術の研究を進めています。

教育課程

- 情報物性工学Ⅰ・Ⅱ ■電気磁気学 ■生体センサ工学 ■電気電子計測 ■電気・電子材料 ■電子光デバイス ■生体情報工学 ■化学物理 ■創造科学概論
- 光エレクトロニクス ■集積回路 ■アナログ回路シミュレーション ■情報物性計測システム ■機能性材料

教員一覧

教授	矢野 卓雄 Takuo YANO	バイオシステム工学	准教授	田中 公一 Koichi TANAKA	電子光物性	教授	石渡 孝 Takashi ISHIWATA	レーザー化学	教授	寺田 和夫 Kazuo TERAUDA	機能デバイス学	教授	樋脇 治 Osamu HIWAKI	生体工学
講師	桑田 精一 Seiichi KUWATA	物性理論	講師	香田 次郎 Jiro KOHDA	生物学	准教授	寺内 衛 Mamoru TERAUCHI	集積回路工学 科学教育	准教授	中野 靖久 Yasuhisa NAKANO	視覚情報工学	准教授	福島 勝 Masaru FUKUSHIMA	レーザー分光
講師	藤原 真 Makoto FUJIWARA	電子光システム	講師	藤原 久志 Hisashi FUJIWARA	光情報計測	講師	中野 幸夫 Yukio NAKANO	大気環境化学	講師	八方 直久 Naohisa HAPPO	情報物性	講師	福田 浩士 Hiroshi FUKUDA	計算論的神経科学
						助教	小田垣 雅人 Masato ODAGAKI	生体医工学	助教	辻 勝弘 Katsuhiro TSUJI	集積回路デバイス			

情報科学部の主な研究設備

基礎から応用まで多様に活用できる学びの環境を整備



VSAT地球局

情報工学科

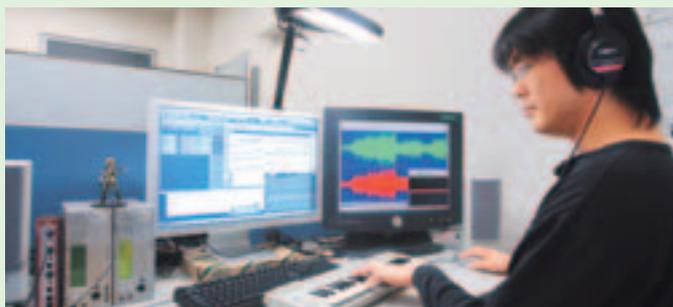
これは衛星通信で利用する超小型地球局 (VSAT) の直径1.8mのアンテナです。このVSATシステムは、比較的小さなアンテナを用いており、災害時における緊急通信路の確保や多地点への映像伝送等を可能としています。



TV会議システム

情報工学科

インターネットを用いるテレビ会議システムを利用すると、離れた大学ともまるで対面で話しているかのように議論ができます。広島市立大学にいながら全世界の大学などと研究交流したり、遠隔講義が実施されています。



自動作曲システム

知能工学科

ある作曲家の作品の中から数曲を選び、音符を数字に置き換えて解析することによって、作曲の法則を特定。その法則を活かしながら新しいオリジナルなメロディーをコンピュータに作らせるプログラムの開発を行います。



大規模PCクラスタ

知能工学科

PCクラスタは複数のパソコンをネットワークで接続したシステムです。128台のパソコンで構成されるPCクラスタを用いて、大規模な計算やデータ処理の並列化に関する研究を行っています。



血圧と眼球運動測定装置

システム工学科

運転中に、運転者の血圧変化や眼球運動を計測できる実験装置です。リアルタイムの生体情報と車の運転を結びつけることで、救急車や福祉車両内の患者の血圧変動を少なくする運転方法のガイドライン作りや、居眠り運転・脇見運転等を防止する車両の開発など、多様な分野への展開を追求します。



移動ロボット

システム工学科

ロボットに自律走行や様々な作業をさせるために、周囲の状況を情報として取り込み、それを整理・解析し、安定した動きを可能にする、人間の頭脳や五感にあたる制御用コンピュータやセンサーの開発に取り組んでいます。移動ロボットに搭載させることで災害時や危険な場所で活躍するロボットの開発につながる研究です。



バイオリクター

学部総合科目

安全性、効率化、品質のレベルアップを図る製造設備の自動化に取り組んでいます。その一環として植物油を原料とするバイオディーゼル燃料の生産時に排出される副産物を微生物の能力を活かしてリサイクルし、地球に優しい新エネルギーの開発を試んでいます。



レーザー分析装置

学部総合科目

我々の生活する普通の環境では存在できない特殊な分子を合成し、レーザーを使ってその特性を直接観測する実験装置です。半導体結晶の気相エピタキシャル成長過程や太陽電池などに利用されているアモルファス半導体の化学蒸着 (CVD) 過程で大きな役割を担う分子を研究しています。

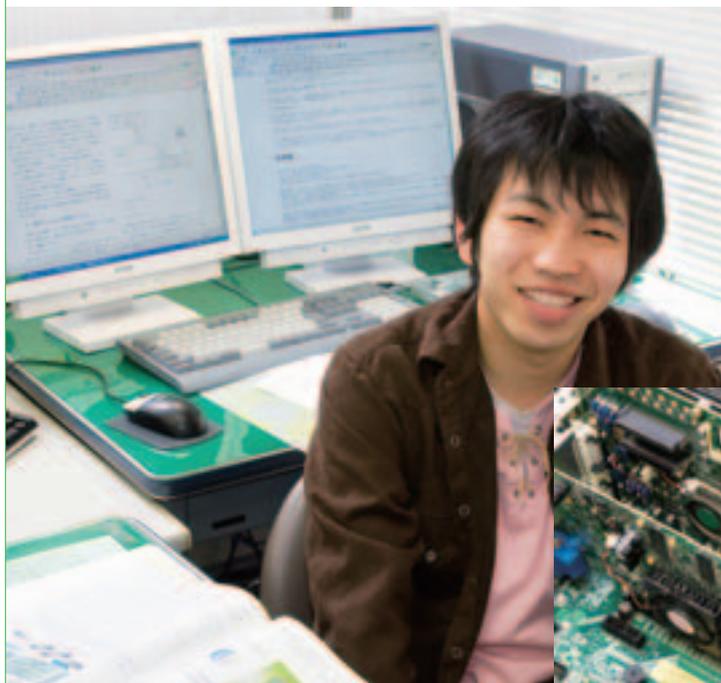
研究紹介

確かな基礎と自由な発想を情報科学の最先端研究に活かす

ネットウイルスなどを検索できるハードウェア上の回路の研究

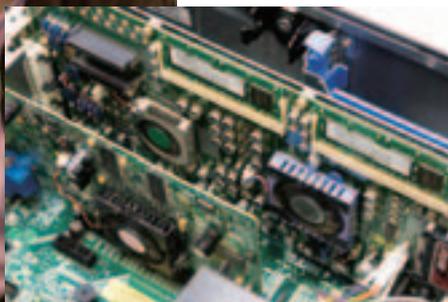
ネット社会で必要とされる開発を

情報科学研究科 博士前期課程 知能工学専攻 2年 川中 洋佑 Yousuke KAWANAKA



インターネット上の厄介物であるウイルスは、ネット社会である現在、大きな問題になっています。ウイルスの対応策としてウイルスを検索して防御するソフトウェアが使われていますが、そこには多量の情報に対しては検索性能が追いつかなくなるという問題が起きてきます。そこで、パソコンのハードウェア本体に、ウイルスを検索して防御する機能をもたせた回路を開発する研究を行っています。具体的には、ハードウェア内に検索するための箱を作り、それに任意でウイルスパターンを設定していくという方法です。この方法であれば、新たなウイルスが現れるたびに、そのパターンを設定してやるだけで検索をすることができます。つまり、一度、回路を構築してしまえば、あらゆるパターンに対応できるのです。社会の動きと強く関わっている研究は、やりがいもあるし、面白さも十分にあると思います。この研究で、平成19年度電子情報通信学会中国支部奨励賞、第9回HISS最優秀賞をいただきました。

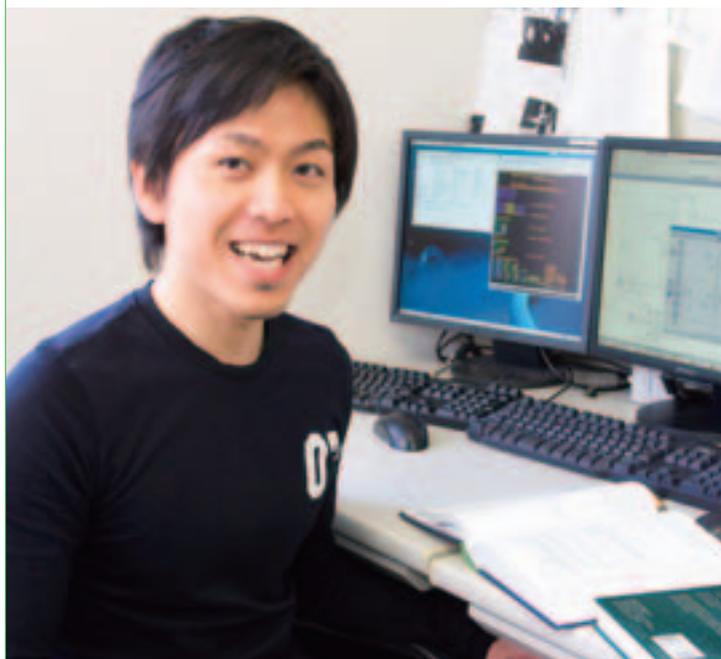
自分の研究が高く評価されたことは、大きな励みになっています。



電子機器におけるナノテクノロジーを研究

よりよい次世代電子製品の開発に向かって

情報科学研究科 博士前期課程 システム工学専攻 2年 鈴木 良尚 Yoshinao SUZUKI



コンピュータはもちろんさまざまな家電や携帯電話など、身の回りのあらゆるものに電子製品があふれている現代。新しい電子機器が次々と開発され、それらはより小型化（スケーリング）の方向に進んでいます。小型化されることによって使い勝手はよくなる一方、別の問題も出てきています。それは小型化された電子部品の中で多くの情報をやりとりすることで情報の過密化が進み、さらに超高周波での利用が加速することによって、ノイズ（雑音）が増加することです。そのノイズをできるだけ軽減し、必要な情報だけを取り出すためには高度なフィルタ技術が必要とされます。そこで、フィルタ技術をテーマにして、現在注目されているナノテクノロジーの一つである単一電子トランジスタ（SET）を使った新たなフィルタの構成に取り組んでいます。これからも学部で学んだことをベースにしながら、大学院での研究を通じて半導体という日進月歩で技術革新が進む最先端の分野で、未知なる世界へ挑戦することにより、技術者として成長していきたいと考えています。



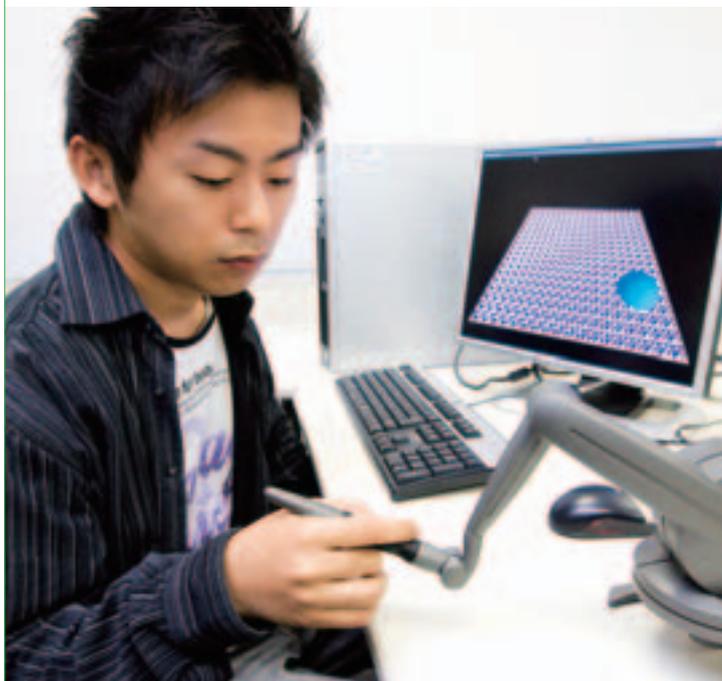
研究に用いているLSI設計ツール

柔軟かつ論理的な思考と旺盛な探究心。高度情報社会が求める優れた技術の開発とその応用、そしてシステムの構築をめざして多様な角度から研究に取り組んでいます。

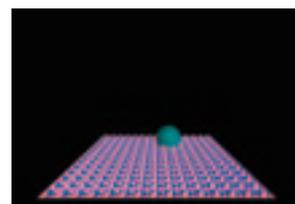
反力デバイスを用いた感性評価システムの研究

消費者が抱く感性を製品開発に活かす

情報科学研究科 博士前期課程 知能工学専攻2年 上藤 恭久 | Yasuhisa UEFUJI



バーチャルリアリティ技術を用いて、消費者の希望にあった感触を表現する研究を行っています。人は製品に対してさまざまなイメージ（感性）を抱いています。たとえば、ソファに対しては、“ふかふかした”柔らかさや、触り心地のいい“上質さ”を持っています。そこで、消費者により良い製品を提供するために、製品の感触から抱くさまざまなイメージ（感性）を感性工学でより具体化することによって製品設計に役立てることを目的としています。研究では、感触を人に感じさせる既存の機械「PHANTOM」を使って、仮想的な面の感触を表現する方法を考え、感触を実際に体験できるシステムの開発・評価を行っています。このシステムが実用化できれば、インターネットでの商品販売でも消費者ニーズに応じた製品を提供でき、消費者は実際の店にいるように製品の感触を確認することができると考えています。私自身の研究内容を、昨年、学会の全国大会や国際会議で発表し、学会の論文誌にも掲載されるという貴重な機会に恵まれました。大学院で得た知識や経験を生かして、社会全体をよりよくしていきたいと考えています。



仮想的な面とPHANTOMカーソル

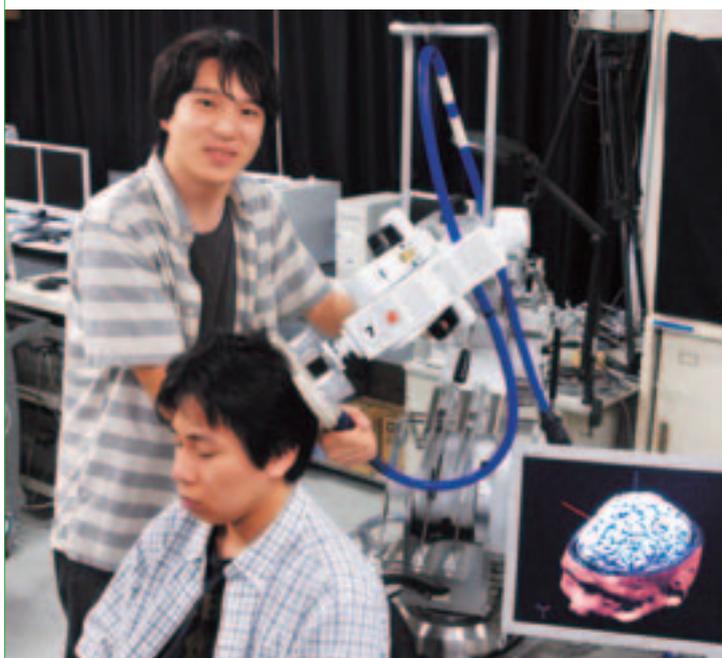


感性から商品開発への流れ

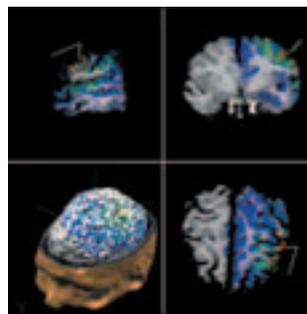
脳機能の非侵襲的計測解析システムの開発

未知なる脳機能の解明に挑戦

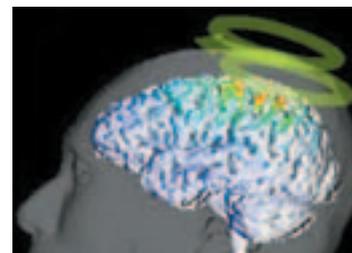
情報科学研究科 博士前期課程 創造科学専攻2年 池田 太郎 | Taro IKEDA



脳機能の解明を目指した研究を行っています。脳の中では、電気的な情報の処理が行われていますが、この脳内の電気的な信号は外部からの刺激を加えることにより制御することができます。経頭蓋磁気刺激法（TMS）という方法があり、コイルで生成したパルス磁気により二次的に頭の内部に誘導された電界によって、痛みなどをまったく伴わず安全に脳の神経を刺激することができます。私は、このTMSを利用して脳の特定部位をロボットアームで自動的に刺激するシステムの開発を行っています。このシステムは、刺激用コイルを自動的に配置するシステムと外からは見えない脳の位置をMRIと三次元スキャナーを用いて算出するシステムから構成されています。この研究により、人間の未知なる脳機能の解明という目標に向かって少しでも前進したいと思っています。



脳の推定刺激部位の表示システム



脳と刺激用コイルの位置を示す三次元グラフィックス

芸術学部

自己と対話し、自己を鍛える。
そこから私らしさが生まれてくる。

枠にとらわれない—創作活動を支えるのは幅広い知識と表現

デザイン工芸学科4年(染織造形) 長山 ひとみ

Art

専攻を決め深く追求する美術学科。幅広く学び専門の表現法を見つけるデザイン工芸学科。

美術学科は1年次から各専攻ごとに実習に力を入れ、確実な技法の修得をめざします。デザイン工芸学科は、1年次にデザイン・工芸の基礎実技の学びを通して幅広い表現方法を身につけ、2年次から学生各自の希望・適性に応じて各専門分野に分かれて技術を磨いていきます。

1年次

■専門基礎科目 専攻に関わらず、創作活動の基盤となる幅広い分野の基礎知識と技法を学びます。

美術学科	日本画専攻	1年次から各専攻に分かれ、専門的な知識と技術を修得していきます。
	油絵専攻	
	彫刻専攻	

デザイン
工芸学科

1年次ではデザイン・工芸の基礎実技を通して幅広い表現法を修得。2年次から各専門分野に分かれて、それぞれの道を追究していきます。

2年次

現代表現領域

デザイン 工芸領域	現代表現
	視覚造形
	メディア造形
	立体造形
	金属造形
漆造形	
染織造形	

全学共通系科目・外国語系科目・資格取得科目

基礎美学を重視した実技主体の教育が芸術学部の特徴です。

芸術は、自由な精神を土台として、人間性を表現する人間そのものの行為です。

芸術学部では、現代社会におけるこの芸術の必要性和役割を認識しながら、広範な活動領域での持続的な創作活動やその企画に従事でき、国際的にも活躍できる人材の育成に努めています。そのために各分野における基礎実技と、制作の精神的支柱となる理論的基礎を修得するとともに、学科や専攻にとらわれず学生が自らの表現の可能性をたえず探究しているよう多角的な教育研究を行います。また国際的な視野のもとに海外の大学や地域社会など、大学の外ともつながる刺激的な活動の場を、学生と教員が一体となって創り出しています。また国際関係論や情報処理など3学部の連携による幅広い教養教育のもとに、芸術文化を盛り上げて、その新たな局面を切り開いていく自立した人間性を育む教育を行います。

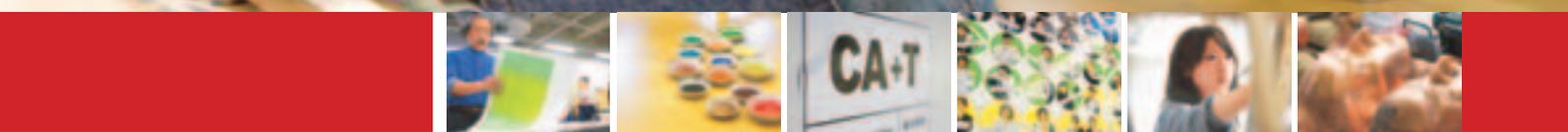
なお1998年（平成10年）4月に大学院博士前期課程（修士課程）を、2000年（平成12年）4月に、同後期課程（博士課程）を開設しました。大学院において、より専門的で優れた創作活動を目指す人材を育成します。



アーティストとしての修行だよ

芸術学部長 **若山 裕昭** Hiroaki WAKAYAMA

アートの世界では、人まねや二番煎じは評価されません。オリジナリティーが一番重要と考えられています。自分のオリジナリティーを見いだすためには、自己を見つめ、そして世の中のいろいろな動き・出来事・現象に興味を持つことが必要です。それらを深く追求することから思考が深まり、その結果として感動が生じます。物事に感動する心情は、アーティストには欠かせない感性です。無関心・無思考からは何も生じないと思って下さい。



3年次

4年次

■卒業制作

卒業制作は、学部4年間の実習と創作研究活動の集大成として成果の発表を行い、自らの創作活動を確立し、社会へのメッセージを発信するものです。制作にあたっては十分な準備と時間をかけて、持てる力を限界まで引き出し、意欲的な表現を探究します。また広島市現代美術館と本学芸術資料館等における卒業制作作品の展示を出発点として、将来の創作活動の方向性を自覚するプロセスともなります。

進路については

P.52

取得可能な資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）
- 高等学校教諭一種免許状（工芸）
- 博物館、美術館などの学芸員

美術学科 Department of Fine Arts



確実な基礎技法の上に表現力が花開く。個性と技術が作家活動に

美術学科は純粋アートの制作を学ぶ学科です。ものの見方、形のとらえ方といった基礎力をしっかり磨き、そのうえで、日本画、油絵、彫刻の3つの専攻それぞれの技法を修得し、自分ならではの表現を追求していきます。1年次から各専攻ごとに実習に力を入れ、手の動きを積み重ねるなかから、確実な技法の修得をめざしていきますが、あわせて、専攻にとらわれず、さまざまな素材を使った表現の可能性も追求していきます。



油絵専攻4年 福井 健太 Kenta FUKUI

石膏のデッサンから始まった芸術学部。デッサンは好きな授業の一つです。美術以外の学科や学部があるので、個性的な友人と知り合うことができ、DJにチャレンジしたりもしました。現在は、油絵三昧の毎日。最近では三人展を開きました。卒業制作は、人間を描くつもりですが、自分が見たままのリアルな表現を追求していきたいと考えています。

教育課程

	1年次	2年次	3年次	4年次			
日本画専攻	<ul style="list-style-type: none"> 日本画実習 I デッサン実習 I 構成実習 I (平面) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本画実習 II デッサン実習 II 構成実習 II (平面) 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻 	<ul style="list-style-type: none"> 日本画実習 III 古美術研究 (演習) 材料論演習 III (金属材料) 	<ul style="list-style-type: none"> デッサン実習 III 構成実習 III (平面) 学外演習 	<ul style="list-style-type: none"> 日本画実習 IV 特別演習 (裏打技法) 絵画論演習 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業制作
油絵専攻	<ul style="list-style-type: none"> 油絵実習 I A・B デッサン実習 I 構成実習 I (平面) 彫刻 	<ul style="list-style-type: none"> 版画制作実習 I 	<ul style="list-style-type: none"> 油絵実習 II A・B デッサン実習 II 構成実習 II (平面) 版画制作実習 II 	<ul style="list-style-type: none"> 油絵材料・技法演習 (古典技法) 	<ul style="list-style-type: none"> 油絵実習 III A・B デッサン実習 III 構成実習 III (平面) 古美術研究 (演習) 	<ul style="list-style-type: none"> 学外演習 	<ul style="list-style-type: none"> 油絵実習 IV A・B 卒業制作 A・B
彫刻専攻	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻実習 I 構成実習 I (平面) デッサン実習 I 	<ul style="list-style-type: none"> 実材制作基礎実習 (工芸制作を含む。) 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻実習 II デッサン実習 II 実材制作実習 I 	<ul style="list-style-type: none"> 構成実習 II (平面・立体) 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻実習 III 古美術研究 (演習) 実材制作実習 II 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻論演習 (古典研究を含む。) 構成実習 III (立体) デッサン実習 III 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻実習 IV 卒業制作
専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> 美術解剖学 デザイン概論 工芸概論 現代美術演習 I 油彩画材料論 油絵入門 日本画入門 	<ul style="list-style-type: none"> 図法及び製図 西洋美術史 材料技法演習 総合演習 C 工芸制作 I・II 現代美術演習 II 芸術工学 工芸材料概説 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 (映像) 概論 デザインと文化 現代美術史 現代美術論 版画制作演習 絵画論 造形応用研究 アート・マネジメント概論 	<ul style="list-style-type: none"> 美学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史特論 文化財学研究 彫刻論 造形応用研究 	<ul style="list-style-type: none"> 造形応用研究 		
全学共通系科目							
外国語系科目							

つながる。



日本画専攻

日本画の技法や考え方を学生各自が実習を通して学び、独自の表現を追求して行きます。1・2年では与えられた課題を中心に、3・4年では主に各自のテーマに基づいた自由制作に取り組みます。また、日本画の材料（和紙、絹、岩絵の具、金・銀箔等）を用いた制作や古典模写などを通して歴史に残る優れた作品群への理解を深めるとともに、絵画表現の幅を広げていきます。

画材の扱い方も自分なりの表現も制作を通して身につける



日本画専攻4年
土居 恭兵
Kyouhei DOI

岩絵の具もニカワも知らずに日本画を選びましたが、制作を重ねながら一歩ずつ進んできました。3年次の古美術研究旅行で見た江戸時代のふすま絵からモチーフを得て、卒業制作に取り組んでいます。

教授 倉島 重友 (Shigetomo KURASHIMA) | 教授 西田 俊英 (Shunpei NISHIDA) | 教授 北田 克己 (Katsumi KITADA) | 教授 藁谷 実 (Minoru WARAYA) | 准教授 佐々木 正 (Tadashi SASAKI)



油絵専攻

基本的指導方針として、写実ないし具象表現を根幹とした教育を行います。1～4年次を通じてデッサンの重視と古典の研究を中心課題とし、油絵制作の実技を通して本格的な油絵の専門技術を修得します。さらに、絵画表現領域を拡大するため、各種版画の技法研究も行います。

描く対象を見つめ、自分の世界を創り出したい



油絵専攻4年
片岡 希美
Nozomi KATAOKA

「頭を使うな、目と手で描け」と先生には言われます。デッサンと古典技法を学び、制作を重ねる中で自分自身と油絵の距離感が掴めてきたと思います。見る人に何かが伝わる絵を描くことが目標です。

教授 堀 研 (Migaku HORI) | 教授 友安 一成 (Kazunari TOMOYASU) | 教授 吉井 章 (Akira YOSHII) | 芸術資料館館長 | 教授 大矢 英雄 (Hideo OYA) | 准教授 森永 昌司 (Shoji MORINAGA) | 助教 松尾 真由美 (Mayumi MATSUO)



彫刻専攻

4年間を通して、彫刻の基礎となる塑造を中心に制作を重ねます。人体をモデルとして、自然から彫刻芸術の基礎を学び、併せて東洋・西洋の古典を学習しながら、自らの創造基盤を作り上げます。1・2年次には、木・石・金属などの実材彫刻の基礎を学習し、3年次以降は、自由な制作活動の中から自己表現の方法を学びます。

実習で得たものを自分なりの表現につなげる



彫刻専攻4年
土居 大祐
Daisuke DOI

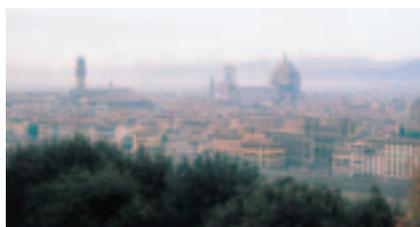
木・石・金属の実材彫刻の基礎や実習制作を通して、古代から続く彫刻という芸術が心と身体に浸透した気がしています。大学で得たものを大切にしながら、自分なりの表現を追求し続けたいと思います。

教授 植草正勝* (Masakatsu UEKUSA) | 教授 前川義春 (Yoshiharu MAEKAWA) | 教授 伊東敏光 (Toshimitsu ITO) | 助教 秋山 隆 (Takashi AKIYAMA) | 助教 梶原正朗 (Masaaki KAJIWARA)

*の教員は平成20年度末に退職の予定です。

古美術研究演習

3年次の後期に、油絵専攻ではイタリアへ、日本画専攻・彫刻専攻とデザイン工芸学科は京都・奈良への古美術研究旅行を行います。



自己が息づく新しい文化を生み出す

描く、形づくる。一人ひとりの研ぎすまされた感性、
確かな技術が創りだすオリジナリティあふれる世界。またひとつ、新しい文化が息づく。



日本画 若佐 慎一「聴える」



日本画・模写 北川 綾「地藏菩薩像」



油絵 宮本 朋子「線」



日本画 三宅 良信「自画像」



日本画 井上 花「カキシバモトフ」



油絵 伊藤 智光「自画像」



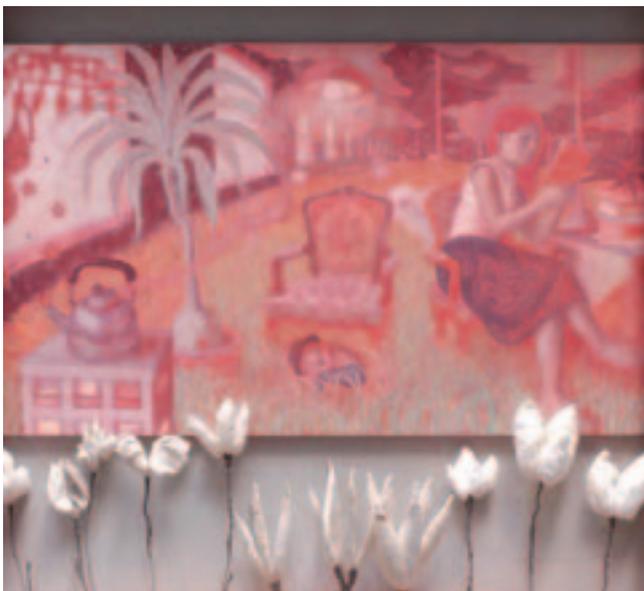
彫刻 山中 洋明「義和」



油絵 中野 淳也「間合」



彫刻 三上 賢治「atmosphere」



油絵 横山 仁美「真夜中の船出」



彫刻 黒田 大祐「造成地に生える草」

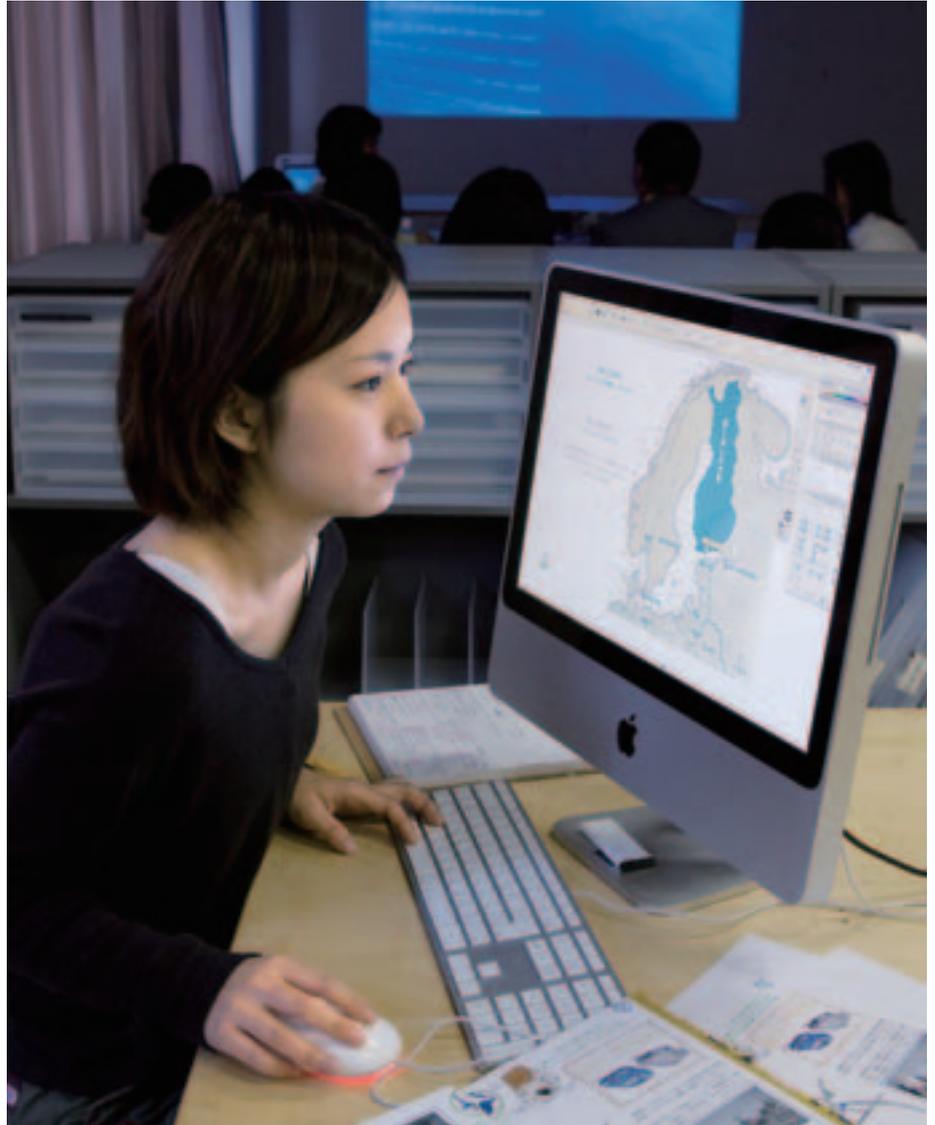
デザイン工芸学科

Department of Design and Industrial Arts



創造性のある幅広い表現法を修得し日常のあらゆるシーンを彩る。

生活に関する造形芸術としてのデザイン及び工芸の総合的な教育研究を目的として、基礎的な表現力と技術を重視するとともに、既存の分野にとらわれることなく、多様な素材を体感し、広範な活動領域の中で十分に対応できる、創造性のある幅広い表現法の展開を可能とする教育を行います。1年次にデザイン・工芸の基礎実技教育を行い、幅広い表現方法を修得させ、2～4年次で各専門分野に分かれて、課題制作や卒業制作に備えます。



デザイン工芸学科 視覚造形4年

竹内 仁美 Hitomi TAKEUCHI

グラフィックデザインに興味があり、将来はデザイナーを目指しています。今は、自分らしさを大切にしながら、見る人に感動を与え、社会に発信できるデザイン表現を創りだすことの難しさを感じる毎日です。迷った時、悩んだときに助けてくれるのが個性的なクラスメイト。デザインという分野は一緒でも、目指す方向の違う存在は互いに刺激しあえるいい仲間だと思います。

教育課程

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>■専門基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術解剖学 デザイン概論 工芸概論 現代美術演習 I 油彩画材料論 油絵入門 日本画入門 	<p>■専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形実習 I A・B 描出実習 I 形体実習 I 	<p>■専門基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 図法及び製図 西洋美術史 材料技法演習 総合演習 C 工芸制作 I・II 現代美術演習 II 芸術工学 工芸材料概説 写真(映像)概論 デザインと文化 現代美術史 <p>●現代美術論</p> <ul style="list-style-type: none"> 版画制作演習 絵画論 造形応用研究 アート・マネジメント概論 <p>■専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合表現研究(演習) 造形実習 II A・B 描出実習 II 形体実習 II 	<p>■専門基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形応用研究 <p>■専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形実習 IV 卒業制作
<p>■専門基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 美学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史特論 文化財学研究 彫刻論 造形応用研究 			
<p>■専門基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典研究(理論) 古美研旅行含む。 テーマ研究(演習) 造形実習 III A・B 			
<p>■専門基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形応用研究 			
<p>■専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 造形実習 III A・B 			
<p>全学共通系科目</p>			
<p>外国語系科目</p>			

<p>教授 大井 健次 Kenji OOI</p> <p>現代表現(兼)視覚造形</p>	<p>准教授 鰐澤 達夫 Tatsuo EBISAWA</p> <p>現代表現</p>	<p>准教授 柳 幸典 Yukinori YANAGI</p> <p>現代表現</p>	<p>准教授 加治屋 健司 Kenji KAJIYA</p> <p>現代表現(理論)</p>	<p>教授 及川 久男 Hisao OIKAWA</p> <p>視覚造形</p>
<p>教授 中嶋 健明 Takeaki NAKAJIMA</p> <p>メディア造形</p>	<p>准教授 笠原 浩 Hiroshi KASAHARA</p> <p>メディア造形</p>	<p>教授 服部 等作 Tosaku HATTORI</p> <p>図書館長 立体造形</p>	<p>准教授 吉田 幸弘 Yukihiko YOSHIDA</p> <p>立体造形</p>	<p>教授 若山 裕昭 Hiroaki WAKAYAMA</p> <p>学部長 金属造形</p>
<p>教授 南 昌伸 Masanobu MINAMI</p> <p>金属造形</p>	<p>准教授 永見 文人 Fumito NAGAMI</p> <p>金属造形</p>	<p>准教授 大塚 智嗣 Tomotsugu OTSUKA</p> <p>漆造形</p>	<p>教授 藤本 哲夫 Tetsuo FUJIMOTO</p> <p>染織造形</p>	<p>准教授 倉内 啓 Hiroshi KURAUCHI</p> <p>染織造形</p>

教員の研究領域については平成20年4月1日現在のものです。



現代表現 — 現代美術+理論

先端的表現領域におけるアーティストの育成に加えて、キュレーションを含めた理論的思考ができる人材の育成を目指し、実践的な国内外での展覧会の企画と運営により、アートに関わる総合的なマネジメントの能力を身につけます。

現代表現4年

水口 鉄人 Tetsuto MIZUGUCHI

自分の感覚だけでなく、多様な角度からモノを見つめて表現していくところが現代表現の面白さ。今は、細胞の顕微鏡写真を使った作品ができないか、いろいろと模索中です。



視覚造形 — 多種多様な素材を研究し、表現に応用

ビジュアルコミュニケーションデザインの基本となる日本の墨や毛筆、西洋古典の模写を通じて技法と感性を知り、コンピュータを使ったCGやDTPへの展開等を修得。イラストレーションやグラフィックデザイン等多岐にわたるメディアへの応用に取り組みます。

視覚造形2年

宮内 玲奈 Rena MIYAUCHI

金属造形や染色造形、漆造形など、多彩な授業でデザインに対する視野が広がりました。これからは個性を生かしたビジュアルデザイン表現を追求したいと思います。



メディア造形 — 映像表現を軸に現代のメディア表現の可能性を創出する

現在、動画表現を展開する上で、電子メディアの活用は無視できません。本分野ではそうした環境のもと、コンピュータを使用したアニメーションや映像表現を学びます。また、ヴァーチャルリアリティやインタラクティブなど、多様なメディアへの展開を通して、これからの芸術表現の可能性の創出を目的とします。

メディア造形2年

川人 舞子 Maiko KAWAHITO

メディア造形は動きや音など、構成要素が多い分、多彩な表現ができる分野です。幅広い視野をもって、自分にしかできない表現方法を模索していきたいと思っています。



立体造形 — 生活と社会における人・モノ・情報の関係をデザインする

計画から実際の制作を通じて、生活空間における人・モノ・造形・情報環境の関係と、機能や素材と造形との関係を学びます。制作にあたっては芸術資料館の収蔵資料で情報収集・活用を行い、各専門工房（金属・木工・染織・塗装・CGラボ等）の有機的活用をはかり、デザインの具体化をすすめます。

立体造形3年

植木 悠 Haruka UEKI

家具や車のカタチが好きで選んだ立体造形。無駄のないデザインに惹かれます。鉄や木、漆、プラスチックなどさまざまな素材を扱える工房が充実しているのが魅力です。



金属造形 — 金属を主体とした造形の計画から実制作までを行う

人類が金属素材に出会って以来、金属の可能性の探求は、弛みなく行われてきました。今では数多くの金属素材が開発され、現代生活に欠かすことのできない素材となっています。彫金、鍛金、鍍金といった、金属工芸の基盤となる伝統技法と金属素材について学びながら、金属造形の新たな可能性と独自の表現をめざします。

金属造形3年

越智友里恵 Yurie OCHI

堅い金属を、叩いたり延ばしたりしながら作品に仕上げる過程が新鮮で選んだ金属造形。人間として、アーティストとして尊敬できる先生や先輩達の作品から学ぶことが多いです。



漆造形 — ものづくりの必然性を追求し、自由な自己表現をめざす

漆の造形には、木、金属、布等、様々な素材の認識と技術の習得が必要不可欠です。様々な素材を扱い深く追求することで、多様な知識と必然性を学び、これからの社会における自由な自己表現をめざします。

漆造形芸術学専攻1年

舩岡 真伊 Mai MASUOKA

現代のライフスタイルにふさわしい漆の作品を創っていきたい。特に漆の色に面白さを感じているので、自分にしか出せない色を出すためにさらに技術や知識を磨きたいと思っています。



染織造形 — 染織の多様な技法を習得し、染織造形制作への展開を行う

染織工芸は古来から生活用品としてそれぞれの時代の文化の証です。日本独自の多様な技法と感性の蓄積を今一度見つめ直し、現代社会における染・織・繊維造形のあり方を広い視野から捉え、手仕事による独自の作品制作に取り組みます。

染織造形3年

青木 聡子 Satoko AOKI

大学祭で、シルクスクリンで染めた布で作った小物を販売して、評判になりました。染色は身近な生活の中にある芸術。多くの人の目にとまる作品を創りたいと思います。

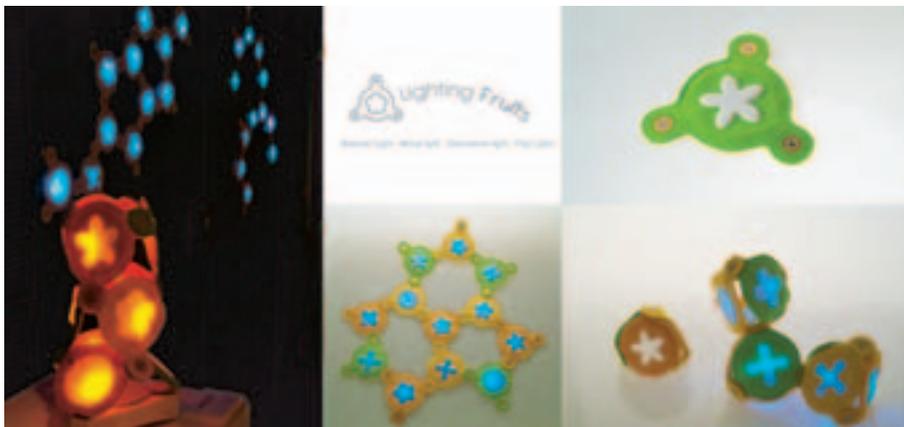


デザイン工芸学科 学生作品 Students' Works

可能性への挑戦が未来を映し出す

織る、操る、デザインする。自分を信じ、自分に期待する熱い想いが生み出す無限の可能性。

個性と技術の融合が、いま未来を映し出す。



立体造形 チャン・アドリアナ「Lighting Fruits」



金属造形 加登 優希子「ウタカタ」



メディア造形 植田 宙史「悪魔ちゃん」(アニメーション作品)



視覚造形 藤本 忠祐「manimal」



現代表現 沖中 志帆「エンドレス 0」映像とベルリンでのパフォーマンス



染織造形 青木 裕未
「今日のできごと×365」—2005年のもよう・2006年のもよう・2007年のもよう—



漆造形 舩岡 真伊「Joy -cui- -daia- -mag-」



創造工房 Studios

国内最大級のアトリエ群、ココから大きな夢と感動が生まれる。



日本画アトリエ

1・2年次では、古典模写・風景制作・人物制作・自由制作等の課題を通して、画面構成や色彩構成など基礎的な表現を学びます。



日本画大学院アトリエ

学部4年間で見つけたそれぞれの絵画世界を深め、独自性を持って表現できるよう創作研究に取り組みます。



模写室

古典作品の模写を通して優れた文化財の表現・技法・材料について研究し、作品制作へとつなげていきます。



油絵アトリエ

1・2年次では石膏像、静物、人物をモチーフに観察力を養い、デッサンと油彩の基礎力を磨きます。3・4年次では、個人課題に取り組み、より一層油彩表現を深めています。



大学院油絵アトリエ

学部4年間で得た絵画技法を土台に、独自の油彩表現を展開、発展させるよう創作研究に取り組みます。



フレスコ実習室

フレスコ実習（集中講義）では、フレスコ実習室内にあるレンガを積み上げた壁面に直接フレスコ画を描き、油彩画とは異なる描画方法を体験します。



石膏室

「石膏像のある室内空間」の授業では、石膏デッサンの延長として油絵の具を使って石膏像のある室内空間を描き、空間の把握と油絵の具の表現効果を考えます。



版画工房

4つの代表的な版画技法（木版画・銅版画・石版画・シルスクリーン）の中から2年次では銅版画、3年次では石版画の実習に取り組み、版による表現について考察します。



木彫工房

1年次、2年次では木彫の基礎実習を行い、3年次以降、木彫の造形美を通じ、さらなる技法の習得、木材研究を進め独自の表現を展開します。



石彫工房

1・2年次には中硬石（安山岩）を使用し石彫の基礎技術を学びます。その後は御影石、大理石等の石材の特性を生かした造形に展開していきます。



金属工房

1・2年次では金属造形の基礎技術を学び、その後は素材研究を進め金属彫刻の加工技術、その特性を生かした新たな方向性と可能性を追求します。



視覚造形工房

視覚造形では、あらゆる造形の基礎であるイメージを表現し伝えること（描く、書く、話す、作る、身体表現する等）を重視しながら創作研究に取り組みます。



メディア造形工房

コンピュータ操作のスキルやテクニックに留まらず、それをいかなる表現へと展開していくか…。オリジナルあふれる表現を追究していきます。



立体造形工房

造形のモデリングからスケールモデル、1/1クレイモデルまでの原形制作を行い、三次元計測及び、そのデジタル処理によりプロダクトデザインのモデリングをサポートします。



漆工房

漆工房では、蒔絵、彫漆、螺鈿等の加飾造形実習、盆やお椀の素地を制作する轆轤造形実習、自由な造形表現が可能な乾漆造形実習等、さまざまな実習を行い、新たな自己表現をめざします。



鍛金・鍛造工房

金属の塑性加工（鍛金・鍛造）、溶接加工を行う工房です。「鍛金」とは、金属の板材を木槌や金槌で叩きながら成形していく絞り加工をさします。「鍛造」とは、加熱した金属の塊材を機械ハンマー、金槌で打ち延べ成形していく加工です。このような塑性加工や溶接技術を活用して大型作品の制作が可能です。



彫金工房

ジュエリー制作（指輪などの装身具）、レリーフ制作など比較的小さな作品を制作する工房です。繊細な溶接（ロー付）や、鋳（たがね）を使った金属表面への彫り、板材を打ち出しているレリーフ表現などを行います。



織工房

綴織・紺織・組織織など機（ハタ）を使った技法に加えて、機を使わず自由な発想と素材によって表現を試みるファイバーアートを学び、独自の作品制作へと展開します。



染工房

型染・臍織染・スクリーンプリント（捺染）・友禅などの基本的な染め技法を習得し、それを基にした各自のオリジナルな表現による作品の可能性を探ります。



CA+Tラボラトリー

国内外の現代美術に関する図録を豊富に所蔵し、プレゼンテーション等を行うディスカッション・ルームと展示会を行う展示スペースを完備しています。



CGラボラトリー

本学の高度なネットワーク環境を生かし、3DCG、映像編集加工等のデジタルコンテンツ制作のためのマシンを始め、立体造型機、大型プリンターを備えた、高度に整備されたラボラトリーで、全専攻の学生の利用が可能です。



VRスタジオ

全国の大学に先駆けて整備された、リアルタイムの合成の映像制作を可能にするバーチャル・リアリティー・スタジオシステムを中心に、ムービー、ステイル両方の撮影が可能な映像スタジオで、学部、研究科学生の高度な映像作品の制作を支えています。

テラコッタ窯場



木材加工室

多くの木材加工機械を有し、課題の制作や木材・木質材料及び制作に関する指導・相談等の技術的支援基地。



金属加工室

金属の機械加工を行う工房です。大型材料の切断・切削、穴開け・折曲加工等が行える機械が整備されており、機械室専属の指導員が指導にあたります。



プラスチック塗装工房

各種樹脂の加工室と専用の塗装ブースを備えています。また研磨のためのサンディング室も併設しています。

写真室

暗室

学びを深め、視野を広げる

国際学研究科 博士前期課程 国際学専攻 2年

前田 未央 Mio MAEDA

高校時代にドイツに留学。
日本語を勉強している外国人の多いことに気づき、
外国人の日本語学習への興味が研究の原点に。

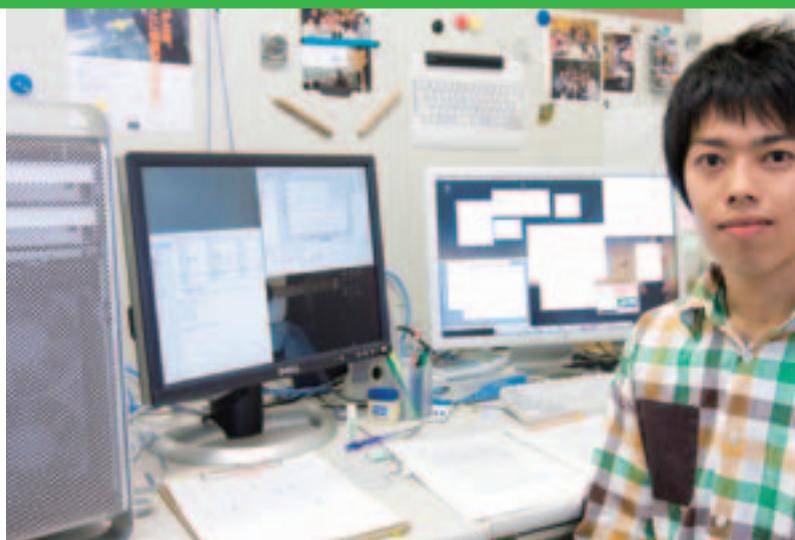


地球規模のグローバルな視点を養う

情報科学研究科 博士前期課程 知能工学専攻 2年

成田 浩之 Hiroyuki NARITA

地球環境問題に、
情報科学の分野から
アプローチすることで、
よりよい環境や社会の実現に役立ちたい。

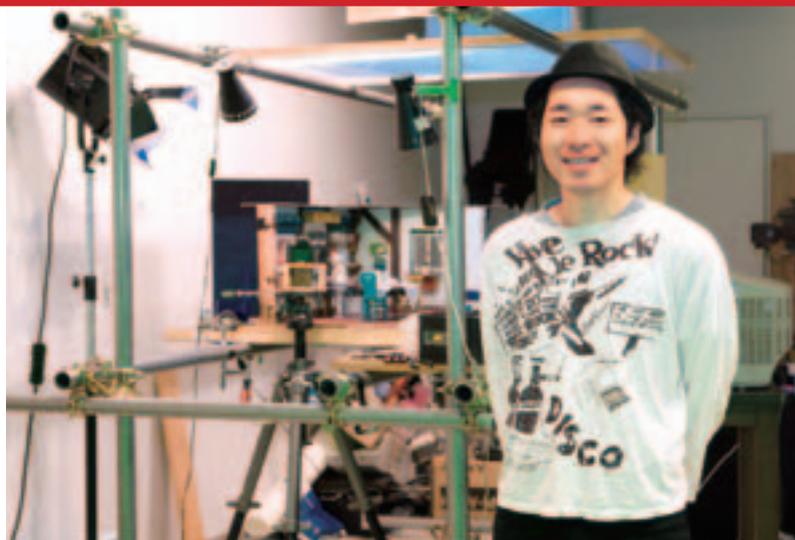


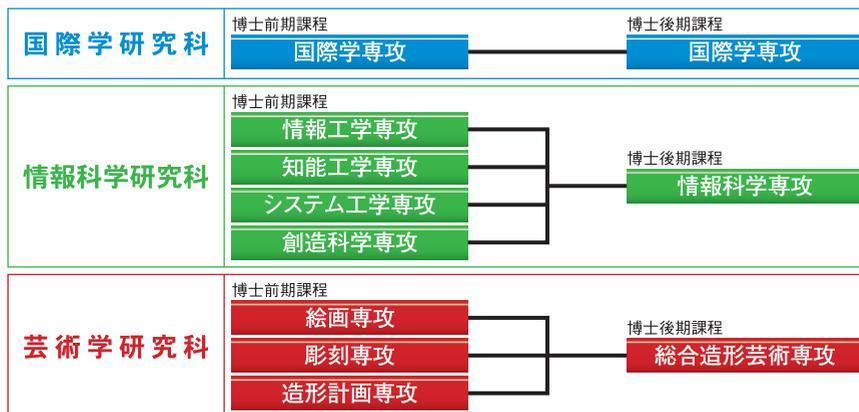
自分で納得できる作品制作を

芸術学研究科 博士前期課程 メディア造形分野 2年

古山 俊輔 Syunsuke KOYAMA

学部の課題がきっかけで
デザイン志望からアニメーションへ。
現代表現的な手法の
アートアニメーションを追究したい。

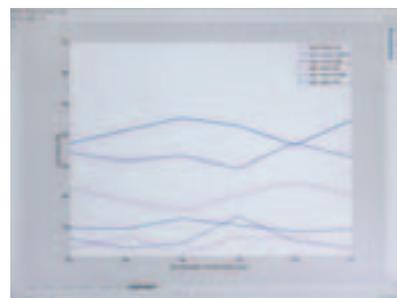




大学の卒論で外国人の日本語学習におけるオノマトペ（擬音語、擬態語）の学びについて研究。その卒論で思いがけず、平成18年度卒業論文グランプリで最優秀賞をいただきました。自分としてはまだまだ不十分で、もっと研究を続けたくて大学院へ進学しました。大学院は、最初から目的が明確で、先生の指導もマンツーマンなので、大学以上に密度の濃い学びができます。また、自分の研究だけでなく必須授業もあるので、これまでなされてきた研究の多様な手法を知り、広い視野を養うこともできます。私は、この研究を通して、将来の進路に日本語教師を考えるようになりました。その第一歩として、教えるとはどういうことかを体得するために英語教員の専修免許取得に励んでいます。



情報科学部3年次に、英語力を磨くことと自分の価値観を広げたいと考えてオーストラリアに留学をしました。その時に、自然にあふれた都市空間を体験したことから、情報科学の分野から地球温暖化などの地球環境問題にアプローチできないかと考えるようになって大学院への進学を決めました。現在は、パターン認識研究室で、現在の地球環境状況を解析するために、過去の温度変化等の環境データを、コンピュータにどのような基準で判断させて分類・解析していくかという研究に取り組んでいます。卒業後は、自動車関連企業に就職する予定ですが、環境に優しいエンジンの開発を目指したいと思っています。そのために、卒業までの残り半年間、ドイツに留学してさらに知識や経験を積んでおきたいと考えています。



学部の3年次に出会ったアニメーションをもっと追求したいと考えて、研究科への進学を決めました。自分で考えて自分で納得するまで突き詰めていくことができる、それが大学院だと思います。今、取り組んでいる作品は、鳥を見た人間が、自分でも飛べたいと考えて飛行機を作り出すというストーリーの立体アニメーション。大学生で立体アニメに取り組む人は少ないので、大学生レベルの作品の底上げになるようなものになったのではないかと考えています。今後は、現代表現的なものの見方や考え方を取り入れたアートアニメーションを創りたいと考えています。最終的には、アートアニメの盛んなヨーロッパで仕事することが目標です。



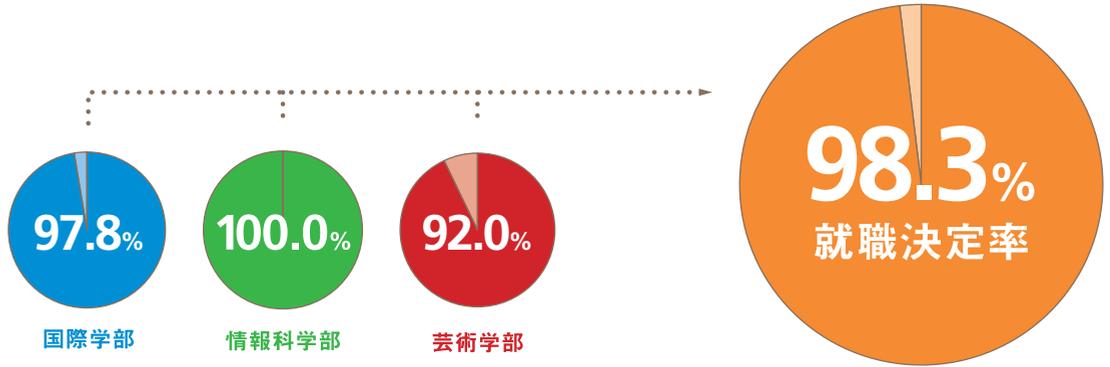
進路 就職

100%が目標、就職決定率！

市大 **POWER OF**
HIROSHIMA CITY UNIVERSITY

万全のバックアップ体制で希望の進路へ

大学

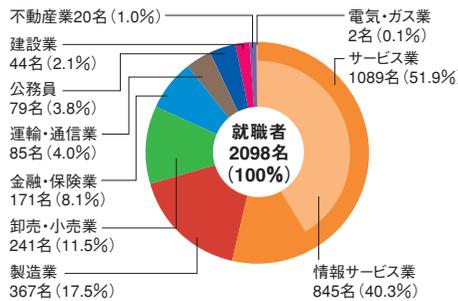


[平成20年3月大学卒業者の学部別就職状況]

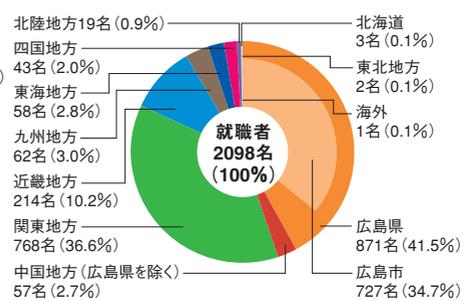
区分	国際学部	情報科学部	芸術学部	合計
卒業生(名)	104	219	70	393
就職希望者(名) A	90	122	25	237
就職決定者(名) B	88	122	23	233
就職決定率 B/A×100(%)	97.8	100.0	92.0	98.3
(参考) 進学者(名)	2	87	19	108

[卒業者の就職実績(平成20年3月まで)]

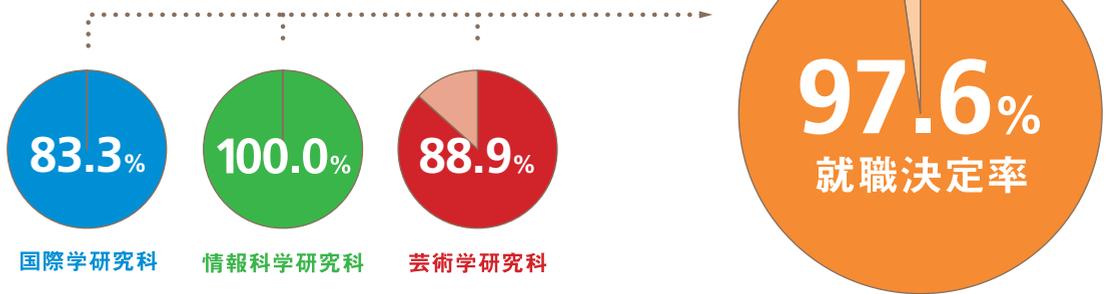
業種別就職状況



地域別就職状況



大学院

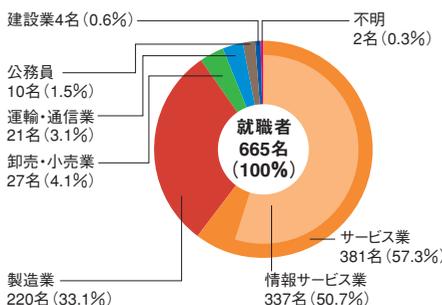


[平成20年3月大学院(博士前期課程)修了者の研究科別就職状況]

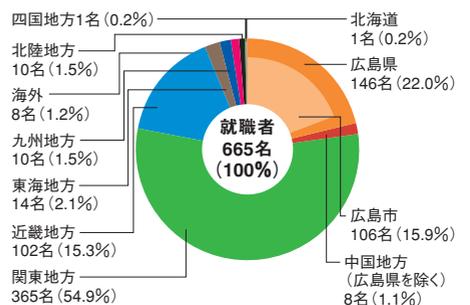
区分	国際学研究科	情報科学研究科	芸術学研究科	合計
修了者(名)	16	74	38	128
就職希望者(名) A	6	69	9	84
就職決定者(名) B	5	69	8	82
就職決定率 B/A×100(%)	83.3	100.0	88.9	97.6
(参考) 進学者(名)	3	3	6	12

[大学院(博士前期課程)修了者の就職実績(平成20年3月まで)]

業種別就職状況



地域別就職状況





やりがいとプレッシャーを感じるスーパーコンピュータ開発

2007年3月 情報科学研究科 博士後期課程 修了 博士(情報工学)

中村 朋健 Tomotake NAKAMURA 富士通株式会社 次世代テクニカルコンピューティング開発本部 ソフトウェア開発統括部 勤務

現在、富士通株式会社で、文部科学省推進の国家プロジェクト「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」の一員として、ソフトウェアの開発に携わっています。この世界を目指しているスーパーコンピュータは、病気の診断・治療、新薬の開発や集中豪雨のピンポイント予測の高精度化などで安心安全な社会をつくり、人々の生活の飛躍的な発展に役立つもので

す。こうした大規模なプロジェクトに参加できたことで、大きなやりがいを感じると同時に、学生の頃とは違うプレッシャーも感じています。しかし、こうした最先端の開発に携わることができるのも、市大時代にやりたい研究をやりたいように進める私を温かく見守り、つまづいた時には励ましながらも厳しく指導してくださった先生や先輩達の存在があったからだと思います。



市大時代の知識をベースに、最高のお客様満足を目指す

2005年3月 情報科学研究科 博士前期課程 修了

竹内 達 Satoru TAKEUCHI 株式会社NTTドコモ 中国支社 勤務(出向:ドコモエンジニアリング中国 岡山ネットワークセンター)

携帯電話の電波はアンテナ(基地局)に飛び、そこから県域ごとに設置された『交換機』に集約されています。私はその交換機の建設・保全作業を担当。交換機の故障修理や機能拡充など内容はさまざまですが、作業スピードに加えて確実・慎重さが求められる仕事です。故障が発生すれば休日・夜間を問わず呼び出しがかかり、いったん現場に入ると、作業が終了するま

で中腰でいることも珍しくないといった厳しい毎日ですが、それだけに、非常に大きな責任感や達成感を感じています。日々の業務を通して、市大の時に情報ネットワーク研究室で学んだ知識が、ベースになっていることを実感。入社4年目、目の前の仕事をこなすだけでなく“最高のお客様満足を提供するためにはどうすればよいか?”と自問自答しながら頑張っています。

情報科学部卒業後は、大きく2つの進路があります。
会社員、公務員、教員として、社会に巣立つコースと、
さらに専門知識・技術を磨くため大学院に進学するコースです。

企業に就職

今、最も注目されている情報分野の知識や技術を修得した情報科学部の学生は、卒業後、情報通信、ソフトウェア、情報機器製造、コンピュータなど、時代の最先端の企業にて活躍しています。

これまで、次のような企業に就職しています(五十音順)。

※企業総数 約600社のうちの抜粋

- | | | |
|-------------------|-----------------------|--------------------|
| ●伊藤忠テクノソリューションズ | ●シャープ | ●パナソニックアドバンステクノロジー |
| ●ウッドワン | ●シャープビジネスコンピュータソフトウェア | ●浜松ホトニクス |
| ●NECシステムテクノロジー | ●住友金属システムソリューションズ | ●日立製作所 |
| ●NTTデータ | ●セイコーエプソン | ●日立ソフトウェアエンジニアリング |
| ●NTTドコモ | ●積水ハウス | ●広島銀行 |
| ●NTTドコモ中国 | ●ソニー | ●広島電鉄 |
| ●NTT西日本 | ●大日本印刷 | ●富士ゼロックス |
| ●エネルギア・コミュニケーションズ | ●竹中工務店 | ●富士通 |
| ●エルピーダメモリ | ●中電工 | ●富士通中国システムズ |
| ●沖電気工業 | ●デオデオ | ●富士通テン |
| ●オムロン | ●デンソー | ●船井電機 |
| ●オリンパス | ●東芝 | ●松下電器産業 |
| ●キャノン | ●東芝情報システム | ●マツダ |
| ●熊平製作所 | ●凸版印刷 | ●三菱重工 |
| ●KDDI | ●日産自動車 | ●横河電機 |
| ●サタケ | ●日本電気 | ●リクルート |
| ●三洋電機 | ●日本IBM | ●リコー |
| ●JR九州 | ●日本IBM中国ソリューション | ●ローム |
| ●JR西日本 | ●野村総合研究所 | ●YKK |

大学院に進学

情報科学部の卒業生のうち、例年約40%の学生が本学の大学院に進学しています。また、他大学の大学院に進学する学生もいます。これまで、筑波大学、東京工業大学、電気通信大学、長岡科学技術大学、静岡大学、名古屋大学、奈良先端科学技術大学院大学、京都大学、神戸大学、広島大学、九州大学などの大学院に進学しています。

公務員・教員

一般企業のほか、公務員や教員として活躍している卒業生もいます。これまでの主な進路は、広島市役所、広島県庁、広島県警察本部、中国管区警察局、国土交通省中国地方整備局、財務省造幣局、防衛省海上自衛隊、防衛省航空自衛隊、東京消防庁、広島市教員、神奈川県教員などです。

芸術学部

Art



与えられるチャンスに応えられる実力を蓄えたい

2006年3月 芸術学部 デザイン工芸学科 立体造形専攻

濱永 大企 Daiki HAMANAGA 株式会社本田技術研究所 四輪開発センター デザイン開発室 勤務

現在、自動車の内装デザインに携わっています。入社2年目ですが、自分なりのデザインやスケッチ、アイデアの提案など、さまざまなチャンスを与えられる恵まれた環境にやりがいを感じています。今は、デザインを考えることが楽しく、暇さえあればスケッチを描いてアイデアを追求する毎日を送っています。よりよいデザインを創り出していくために、これからもさまざまな経験を積む

ことが重要だと思います。そして、さらにステップアップし、実力を蓄えていきたいと思っています。市大で学んだ立体造形では、枠にとらわれない発想や多角的な視野を持つことの大切さを学びました。これからも自分なりの発想を大事にしながら、確かな実力を蓄えて、ユーザーに喜ばれる車を作り出せるようにしたいと考えています。



市大で学んだ時間のすべてが、今の自分につながっている

2002年3月 芸術学研究科 博士前期課程 修了

牧原 竜浩 Tatsuhiro MAKIHARA 広島大学附属福山高校 勤務

写実を重視する市大は、私の目指すものに近いと考えて入学。学部当時は、抽象画や立体的な絵画など、多様な絵を描く仲間が多く、私自身も興味を広がっているいろいろなことやってみようとした時期でした。しかし、最終的には写実を追求したいと考えて大学院に進学し、制作に集中する日々を過ごしました。技術の修得だけではなく、全国的にもトップレベルで活躍されている

先生や同じ志を持つ仲間から多くのことを得たと思います。現在は、教師として勤務しながら創作も行っています。教師になって、市大時代に「写実をやっておけば、抽象でも立体でもどんな絵でも描ける」と言われたことの意味を実感。市大で写実の技術を身につけることができたからこそ、創作活動や生徒に対し、自信を持って向き合えるのだと思います。

創作活動

入選

院展、春の院展、雪舟の里総社墨彩画展、川尻町「筆と芸術の祭典」全国水墨画展、国民文化祭美術展、前田青郎記念大賞展、松伯美術館花鳥画展、多摩総合美術展、中国第3回全国水彩画展、新制作展、インド国際トリエンナーレ、雪舟ますだ大賞展、北陸中日美術展、関西国展、国展、現代日本絵画展宇部ビエンナーレ、リキテックス・ビエンナーレ、FUKUIサムホール美術展、雪梁舎フィレンツェ賞展、広島県美術展、二科展、二科展広島展、青垣日本画展、福知山市佐藤太清賞公募美術展

入賞

三田市展(奨励賞)、春の院展(奨励賞)、松伯美術館花鳥画展(優秀賞)、大阪絵画トリエンナーレ(特別賞)、青年美術家展(最高賞)、シルバンギャラリー油彩画展(最高賞)、バングラディッシュ国展(佳作賞)、「広島美術」(奨励賞)、関西新制作展(記念賞・大阪市長賞)、新制作展(新作家賞)、全国学生版画展(優秀賞)、雪梁舎フィレンツェ大賞展(優秀賞)、国民文化祭美術展(広島市長賞)、FUKUIサムホール美術展(奨励賞)、しんわ大賞展(努力賞)、しんわ美術賞展(大賞)、ビエンナーレKUMAMOTO(熊本文化協会賞)、大調和展(東京都知事賞)、二科展(記念賞・特選)、二科展広島展(広島二科賞・広島市長賞)、日本伝統工芸展(東京都知事賞)、京展(京都市美術館賞・コレクション賞)、ボンベイサファイア デザインコンペティション(日本グランプリ)、東京デザイナーズウィーク(Tokyo Design Premio)学校賞・デザインプレミオ賞・喜多俊之賞・100%デザイン賞)、日本版画会展(奨励賞・会友賞)、Bloomberg new contemporaries、白日展(白日賞)、Re-Act 新・公募展2007(審査員賞)、日洋会展(日洋賞・優秀賞)

グループ展・個展

芸美会展、HOPES、新星展、日本画4人展、日本画5人展、日本画2人展、母娘展、広島絵画展、110人展、日本画・油絵有志合同展、ハタチゼンコ展、+C展、第1回240展、事頃展、蝸牛展、想像展、ummi展、萌黄展、ふうの会展、exhibition1995-1997、桐美会展、中韓交流展、YAZIRU同盟展、西美研展、ロイヤル・オーパシス・リーグ展、富田賞候補作家展、バングラディッシュ美術展ポナール・サマーフェスティバル、視展、RUBICON展、ネッツギャラリーBOX個展、sight展、かえるてん、8colors exhibition、NORMAL展、象の会展、LUNCH BOX「遊」、「若き画家たちからのメッセージ2002」展、e.e.展、有朋展、洋画四人展、現代Asian Art Now、99312展、ボリッソモ「展、state展、表象都市metamorphosis広島ー芸術実験プロジェクト2003、東広島現代芸術プログラム2003「白市DNA」、アストラムライン・ミニギャラリーART COMMUNITY「TOMO」、広島デザイナーズフェスタ、金属造形展、現代美術交流展、果MONO展、東京デザイナーズウィーク学生作品展
その他、グループ展・個展 多数

就職先一覧「五十音順、敬称略」

- (株)アーツ
- アートコレクションハウス(株)
- (有)アートデイレクト
- アイメテア(株)
- 朝日新聞印刷(株)
- 穴吹デザイン専門学校
- (株)アリスト
- (株)アルテクナ
- (株)アルファ
- (有)アルフォックス
- (株)いかりスーパーマーケット
- イケダ(株)
- (株)石友
- (株)インフォ・エヌ
- (株)ウイングツ
- (株)内田洋行
- (株)ウッドワン
- 水一産商(株)
- (株)栄北エージェンシー
- H.B.ビルベイト(株)
- (株)NDCジャパン
- (株)NYアソシエイツ
- エビス
- (株)エムアールピー
- (株)オガワ
- (株)小柳工芸舎
- 小野(株)(手芸センター・ドリーム)
- (株)勝矢和哉
- (有)家庭学習研究社
- ガリア・レイノ(株)
- (株)河崎組
- (株)川島織物セルコン
- (株)河野工業所
- 海陽大学(韓国)
- (株)きものプレイン
- 九州大日本印刷(株)
- (有)近代印刷
- 串井木材(株)
- (株)クリエイティブコーポ
- (株)グループ・タック
- クロムスベシヤリデー
- (株)ゲームリパブリック
- (株)クイ・ウノ
- (株)KG情報
- (株)湊水社
- (株)幻生社
- (株)コトダテ
- コニキリアマネジメント(株)
- コニシ(株)
- さきまデザインセンター(株)
- 佐々木木工(株)
- (株)サンエー・インターナショナル
- 産興(株)
- 三芳園
- 三徳商事(株)
- 山陽石油(株)
- (株)サンフ
- シータープロジェクト
- (株)ジェイ・エム・エス
- シガライトーク・コーポレーション
- (有)じやんと
- (株)じやんたろーこーポレーション
- (株)ジャパンプリントシステムズ
- 真生印刷(株)
- (株)スキヨ
- (株)鈴花
- (株)スズキ紙工
- (有)スタジオ風雅
- (株)ステージュユニオン広島
- ストーンハウス
- (株)スペース
- スマイルchanランチ
- 住友スリーエム(株)
- (株)生活考房
- セキ(株)
- (株)セザクスクリエイティブ
- 総合衣裳計画
- (株)総合オロミ社
- (株)創美企画
- SOLALA, Co., Ltd.
- (株)体育社
- (株)第一技研
- 大成印刷(株)
- 大和グラフィック
- (株)タカキュー
- 高島華菁大正ロマン館
- タカヤ商事(株)
- 鑑定(株)
- (株)タクルボックス
- 中外テクノス(株)
- D-コロナ研究所
- (株)ティ・エス・エス・ソフトウェア
- (株)TSSプロダクション
- (株)デザイン総研広島
- デジスタフ
- (株)電通
- トーホー(株)
- (株)トッパンアイデアセンター西日本
- 友野印刷(株)
- 豊田紡織(株)
- (株)ナカプロダクション
- (株)ニシキプリント
- 西日本印刷(株)
- 日本建築(株)
- (株)日本サウガリアパベルツジカンパニー
- 日本通運(株)
- 日本ビジネスアート(株)
- ニューエイズ
- (株)ニューステップ
- 任天堂(株)
- (株)ネットワークス
- (株)ハーティウォンツ
- (株)博展
- (社)福「パスビ
- パッケンモーツァルト
- (株)ハドソン
- (株)ハル研究所
- (株)ハルラボラトリー
- パンビ(株)
- (株)ピーエーワークス
- 東原産業(株)
- (社)福「ひさむ福祉会
- 広島県教育委員会
- 広島市関係団体
- 広島市教育委員会
- (株)広島東洋カープ
- 広島舟入商業高等学校
- 広島三妻ふせつ自動車販売(株)
- (有)ヒロミ・アート
- (株)フィル・エグチャーレ
- (株)フェスタ
- 富士ソフトサービスビューロ(株)
- (株)プラン
- (株)フランドル
- (株)プレーンセンター
- (株)ポイン
- (株)ポーラ
- (株)ボックスインク
- (株)ポニーキャニオン
- (株)ポロクリエイト
- ポプアリアル
- (株)本田技術研究所
- (株)ホンダ産業
- マツダ(株)
- まつやせロファン(株)
- (株)マルニ
- (株)ミスト
- (株)三松
- (株)三村松
- (株)みやび
- (有)無二
- (有)村上染整工房
- (有)メデイク
- モリサワ文研(株)
- (株)ライオン事務器
- 蘭島閣美術館
- (株)ワールド ストア パートナーズ
- (株)ワイス
- (有)ウタナベ
- 渡辺デザイン事務所

Information Studies

Information Sciences

Art



進路相談で自分のやるべきことがだんだん見えてきた。

サポート体制

就職・キャリアサポート



進路支援の二大特徴

きめ細かな個別支援

マンモス大学と違い、入学時から全ての学生にきめ細かくサポートしているのが特徴です。進路においても同じ。就職活動期の学生に限らず、1年生から進路相談を行い、個々の志望や適性などに沿って“きめ細かく”指導・支援していきます。

大学をあげての支援

大学をあげて進路支援に取り組みます。毎年、大学説明会を開催し、企業の採用担当者の方へPRするほか、一年を通じて、企業訪問などにより情報収集し学生に提供しています。

大学生生活サポート



海外語学研修補助事業

学生が海外の大学又は研修機関で語学研修を受ける場合、旅費、研修費用等を補助します。対象となる外国語に制限はありません。補助金交付対象者は、2年生以上の学生で広く学内から公募します。応募者が多い場合には、本学での成績や面接等で選考します。

[平成19年度学生海外語学研修補助事業(実績)]

学部	研修期間	研修語学(滞在国)	学部	研修期間	研修語学(滞在国)
国際学部	H19.8.27~H19.9.21	英語(米国)	国際学部	H19.9.3 ~H19.9.28	英語(ニュージーランド)
	H19.9.3 ~H19.9.21	韓国語(韓国)	情報科学部	H20.2.16~H20.3.15	英語(オーストラリア)
	H19.9.1 ~H19.9.16	英語(オーストラリア)	芸術学部	H19.9.4 ~H19.9.28	英語(米国)
	H19.8.18~H19.9.16	英語(カナダ)		H20.2.23~H20.3.24	英語(カナダ)

「自ら進路を切り拓いていく」、そのためのサポートをします。

大学の役割は人材育成。優れた人材を育て、社会に送り出すことが使命だと考えています。開学以来ほぼ97%前後の就職率を維持していますが、単に就職率を上げるだけでなく、4年間を通じて、一人ひとりの進路（進学・就職・創作活動など）に対して大学をあげてサポートしています。

充実した進路・就職ガイダンス・セミナー

就職活動の方法など総論的なものから実践的なものまで、全学年対象として、年間40回以上の進路・就職ガイダンス・セミナーを開講しています。

一例をあげると、学部別の進学・就職説明会、6回の就職ガイダンス（就職活動の流れやポイント）、OB・OGセミナー、面接・筆記試験対策講座、学内での企業セミナーなどです。これらのガイダンス・セミナーのほか、企業見学や公務員試験模試、教員採用試験の実践指導なども、就職対策としてきめ細かく行っています。

インターンシップ

企業などで実習体験する「インターンシップ」をキャリア形成の柱の一つに位置づけています。単に体験するだけでなく、実習と事前セミナーや報告会とを組み合わせ、実になるものを目指し、インターンシップ研修の充実や協力企業の開拓にも取り組んでいます。また、広島市教育委員会と連携して、教員志望者を対象とした広島市立学校での実習体験活動を行っています。

キャリア形成支援への取り組み

就職支援・対策に加え、キャリア形成を支援するための授業科目の新設など、入学後早期からの系統的な「キャリア形成プログラム」の構築・実施に取り組んでいます。

就職ガイダンス・セミナー

4

- インターンシップ説明会
- 大学生活におけるキャリアデザイン
- 公務員試験対策セミナー
- 航空業界セミナー
- 学校インターンシップ説明会

5

- インターンシップセミナー

6

- インターンシップセミナー
- 夏休み攻略セミナー

7

8

- インターンシップ

9

10

- 第1回就職ガイダンス（自己分析の基本）
- 第2回就職ガイダンス（業界・企業研究）
- 第3回就職ガイダンス（自己PR研究）
- 第4回就職ガイダンス（面接試験対策）
- 第5回就職ガイダンス（グループディスカッション対策）
- 学部別進路説明会

11

- 新聞の読み方講座
- 教員試験ガイダンス
- OB・OGセミナー
- 就職筆記試験対策講座
- 適職診断サポートセミナー
- 女子学生のためのリクルートセミナー
- 航空業界セミナー
- 履歴書の書き方講座

12

- 第6回就職ガイダンス（合同企業セミナー活用法）
- インターンシップ報告会
- 面接対策講座
- キャリアセミナー（業界研究）
- 添削指導（エントリーシート、小論文）
- 模擬面接

1

- 学内合同企業セミナー

詳しくはホームページをご覧ください (<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/shugaku/rec3/>)

授業やクラブ活動をはじめ、心身の健康や経済的なことまで、在学中のあらゆる生活をサポートします。

経済面をサポート

「日本学生支援機構奨学金」をはじめ、自治体や民間団体などさまざまな奨学金を扱っているほか、銀行から授業料の融資を受けた学生に在学中の利子を補助する独自の奨学制度もあります。また、一定の要件で入学検定料や入学金、授業料の減免や授業料の納付猶予を行っています。

住居・生活をサポート

キャンパス内に学生寮（個室・男女各48室）があり、全国の学生や留学生が入寮し、共に生活しています。もちろんアパート・ワンルームマンション・下宿などの賃貸情報も提供。マルチ商法やクレジット・トラブルに巻き込まれた時などのため、弁護士による法律相談も行っています。

エンジョイをサポート

クラブ・サークル活動費や備品整備費、大学祭や西風新都駅伝大会などの学生主催イベント経費をはじめ、学生が企画・参加して留学生や外国人と交流する国際交流事業、自主研究活動や展覧会などを行う場合の経費を大学後援会から助成しています。また、ボランティア情報コーナーを設置してボランティア情報も提供。毎年6月には市内一円で行われるごみゼロ・クリーンウォークへ参加したり、秋には通学路クリーンキャンペーンを行うなど、幅広い活動を行っています。その他、サッカーボールやキャンプ・レジャー用品、視聴覚機器などの無料貸し出しも行っています。

心身の健康・安心をサポート

学生の「いやしの場」にもなっている医務室では、ケガや病気の処置はもちろんのこと、健康相談も行っています。また、心配事や悩みを聞いたり、落ち込んだ時の支えとなる、あるいは“自分探し”を手伝う学生相談、楽しくスポーツができるようにトレーニング方法などを体育教員がアドバイスするスポーツ相談も実施しています。さらに通学中や大学内、クラブ活動中にケガした時などのために傷害保険・賠償責任保険への加入や、個人ロッカーの無料貸し出しなど、快適な学生生活が送れるように配慮しています。



刺激的な交流が次々うまれる芝生の広場がお気に入り。



キャンパスマップ

- ① 本部棟
- ⑩ 講義棟
- ② 講堂
- ⑪ 芸術資料館
- ③ 附属図書館・語学センター棟
- ⑫ 工房棟
- ④ 学生会館
- ⑬ 体育館
- ⑤ 情報科学部棟
- ⑭ グラウンド
- ⑥ 情報科学部棟別館
- ⑮ 400メートルトラック・フィールド
- ⑦ 国際学部棟
- ⑯ エネルギーセンター
- ⑧ 芸術学部棟
- ⑰ 多目的広場
- ⑨ 情報処理センター
- ⑱ 学生寮



講堂

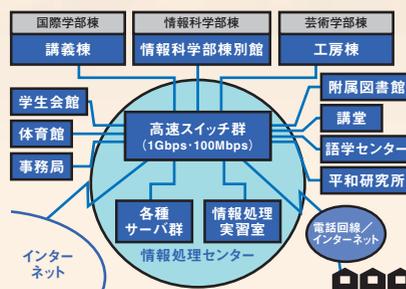
壁面レリーフや舞台の緞帳などに芸術学部教員たちの作品を活かした、本学ならではの施設。大小のホールと、ハイビジョン対応大型スクリーンや国際会議も可能な同時通訳設備と、機能も充実しています。

附属施設

Attached Facilities

教育を支援する附属施設群。
しっかり活用してください。

[キャンパス情報ネットワーク]



附属
図書館

附属図書館長

服部 等作 | Tosaku HATTORI
芸術学部教授



図書約28万冊、雑誌約510誌、視聴覚資料約850タイトルをコンピュータで集中管理。必要な資料をスピーディーに入手できます。ゆったりと、自然光を取り入れた気持ちの安らぐ空間設計も特徴。地域に開放された図書館です

**体育館**

バスケットコートが2面取れるアリーナや、本格的なトレーニングルーム等を備えた体育館。授業やクラブ、サークル活動のほかにも、多目的な利用が可能です。

**学生会館**

学生食堂やクラブハウス、売店、キャッシュディスプレイコーナーなど、学生生活に欠かせない機能がそろっているのが、ここ。なかでも、学生食堂は、吹き抜けの天井から太陽の光が射し込む心地よい空間。ランチメニューも充実しており、カフェテリアのラウンドテーブルでランチしたり、お茶したり。学生たちの交流の場となっています。

**医務室・学生相談室**

心身の健康上の悩みや相談に応じ、学生の「疾病の予防」と「健康相談」を中心に健康の維持増進を図ります。

**グラウンド**

全天候型のテニスコート4面と、野球、サッカーなどが可能な運動場があります。サークル、クラブ活動以外でも、利用することができます。

**広島市立大学キャンパスデザイン
株式会社佐藤総合計画**

広島市西部に位置する丘陵地である現状の地形を生かして3つの学部棟を配置し、各施設の独自性を形態で表現するとともに回廊により相互の連携を強化する計画としています。アクセス道路沿いに大学と地域社会・研究者との交流の接点となるプラザ群を開放的に潤いのある空間として計画し、開かれたキャンパスを視覚的にも表現しています。

**語学
センター****語学センター長**

宇野 昌樹 | Masaki UNO
国際学部教授



語学センターの各教室はCALL(コンピュータ支援言語学習)システムを備え、通訳訓練やオンライン翻訳といった授業だけでなく、英語のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングを徹底的に訓練する、Webを利用した自習形式の集中講座用の教室としても利用されています。自習室では、約2,700の視聴覚教材や各種語学雑誌、NHK各言語講座テキスト・CDが利用可能で、リアルタイムの外国テレビ放送を視聴できるなど、語学学習を授業・自習ともにサポートする、快適な学習施設です。留学や外国語の試験情報も提供しています。

**情報処理
センター****情報処理センター長**

北村 俊明 | Toshiaki KITAMURA
情報科学研究科教授



キャンパス情報ネットワークやインターネット接続のための通信機器を備え、高速で高品質の各種情報通信サービスを提供しています。情報処理実習室にはパソコン約200台が設置され、情報処理教育や学生の自習に活用されています。また、講義棟に設置された遠隔教育設備の技術支援や大学情報サービスの運用管理の支援を行っています。

**芸術
資料館****芸術資料館長**

吉井 章 | Akira YOSHII
芸術学部教授



平山郁夫、久保守、淀井敏夫、喜多俊之、ヴィン・マジストレッティなど、国内外の作品を、芸術参考品として収蔵。企画展を開催するなど市民に公開しています。

**社会連携
センター****社会連携センター長**

大場 充 | Mitsuru OBA
情報科学研究科教授

知的財産マネージャー

加藤 直規 | Naoki KATO
教授



地域社会と本学との連携の窓口として、産学連携コーディネーター及び地域連携コーディネーターが、市民・企業・行政などからの相談に応じ、本学の研究シーズ(研究成果)と企業のニーズとのマッチングや市民・行政などとの協働事業を推進しています。また、知的財産マネージャーが、本学における知的財産の教育や権利化を進めています。



笑い、汗、涙…。キャンパスで
 たくさんさんの感動に出逢う。

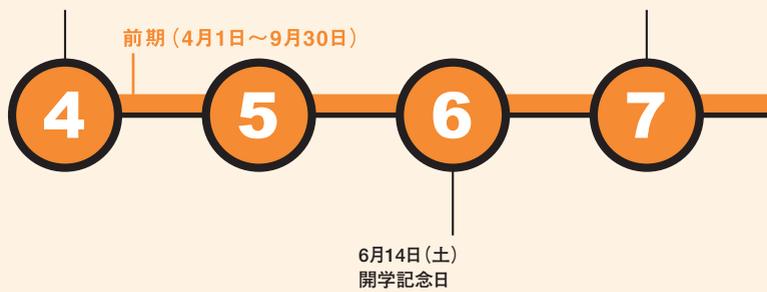
キャンパスライフ



入学式



- 4月 1日(火)～4月 8日(火) 春季休業
- 4月 2日(水)～4月 8日(火) 在学生定期健康診断
- 4月 4日(金) 入学式
- 4月 7日(月)・4月 8日(火) オリエンテーション
- 4月 9日(水) 前期授業開始
- 4月 9日(水)～4月22日(火) 前期履修手続き期間
- 7月23日(水)～8月 5日(火) 前期定期試験



「光と音の響宴」(春の野外コンサート)

クラブ・サークル紹介 Club, Circle Introduction

体育系	文化系
[クラブ] ・空手道部 ・サッカー部 ・ラグビー部 ・市大テニス部 ・軟式野球部 ・トライアスロン部 ・剣道部 ・男子バスケットボール部 ・弓道部 ・アーチェリー部 ・バドミントン部 ・男子バレーボール部 ・陸上競技部 ・ワンダーフォーゲル部 ・水泳部 ・女子バレーボール部 ・少林寺拳法部 ・合気道部 ・ダンス部 ・女子バスケットボール部	[クラブ] ・茶道部表千家 ・裏千家茶道部 ・自主制作映画研究会 ・Music Art Club ・陶芸部 ・マンドリン・ギター部 ・吹奏楽部 ・演劇部 ・Table Game研究会 ・上田宗箇流茶道部 ・電子音楽部 ・CREATIVE ・Focus on Asia Club ・マスコミ研究会 ・写真部 ・ねっこ広島 ・熊貓(パンダ)会(中国語)
・テコンドー部 ・卓球部 ・けんだあーま(けん玉) ・T.A.S(ソフトテニス) ・ダイヤモンドダスト(テニス・スキー)	[その他] ・プザービーター(バスケットボール) ・SPLIT(ボウリング)

学びも遊びも夢中になれるってステキだ

8月 7日(木)・8月 8日(金)

オープンキャンパス

キャンパス見学や学部紹介、ミニ授業など、本学志望者や保護者に大学を公開。



地域のお祭りでおみこしかつぎ



卒業式

10月 1日(水) 後期授業開始
10月 1日(水)～10月14日(火) 後期履修手続期間
10月25日(土)・10月26日(日) 大学祭

3月23日(月)
卒業式

8

9

10

11

12

1

2

3

後期(10月1日～3月31日)

8月 6日(水)～9月30日(火)
夏季休業



お昼休みにみんなで“ハッピーバースデー”

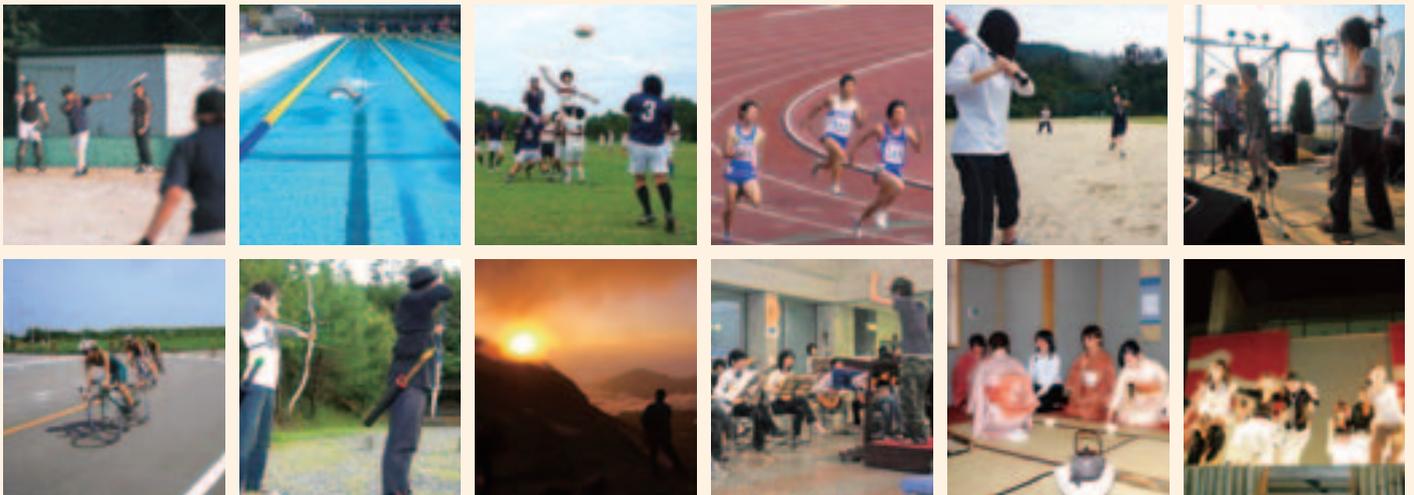


12月24日(水)～1月7日(水)
冬季休業



大学祭

2月 2日(月)～2月23日(月)
後期定期試験
2月24日(火)～3月31日(火)
学年末休業



地域と世界と共に歩み、共に成長する大学をめざして 地域・世界に開かれた大学



広島平和研究所

平和の創造へ向けて世界に情報を発信

核兵器の廃絶と世界平和の創造へ

世界初の核兵器による被爆を体験した「広島」。広島平和研究所は、その歴史を背景に広島市立大学の附置研究機関として開設されました(平成10年4月)。平和に関する学術研究を通じて、核兵器の廃絶に向けての役割を担うとともに、世界平和の創造・維持と地域社会の発展に貢献することを目的としています。

主要な研究領域

- (1) 核兵器に関する諸問題の研究
- (2) 「平和」に関する理論的研究
- (3) アジア太平洋地域における平和の構築に関する研究
- (4) 国際規模の犯罪に関する研究

平和実現に向けた研究活動<プロジェクト研究>

平和研究所では、当研究所研究員が中心となり、国内外の研究者や専門家等の参画を得て、特定のテーマの下に共同で研究を行う「プロジェクト研究」を実施しています。この成果を報告書として出版し、広く発信します。(★は平成20年度実施中のもの。▽は平成19年度まで。)

核問題、核廃絶・軍縮に関する研究

- ★広島反核平和運動の総合的分析:1945-60
- ▽21世紀の核軍縮研究会(出版済)
- ▽東アジアの核軍縮の展望(報告書作成済)
- ▽NPT体制の再検討-広島・長崎からの提言(公開ワークショップ)
- ▽1954年ビキニ核実験による被ばく状況の実相(ミニプロジェクト)
- ▽日米の芸術と大衆文化に表れた原爆と核戦争(出版準備中)

平和と戦争・紛争の理論に関する研究

- ▽新介入主義の正統性と合理性に関する研究会(出版済)
- ▽市民に対する軍暴力:比較史的分析(出版済)
- ▽集団殺戮と集団暴力に関する比較研究(出版準備中)
- ▽空爆と市民-20世紀の歴史(出版準備中)

アジア太平洋地域の平和に関する研究

- ★東南アジアにおける二国間主義と多国間主義
- ▽東アジアの信頼醸成メカニズムに関する研究
- ▽北東アジアの対立と協調(出版済)
- ▽ミャンマー・ピース・イニシアチブ(出版済)
- ▽「呵責」の政治学:北東アジアの集合的記憶(出版準備中)
- ▽相互依存的な二つのコリア:朝鮮半島の平和に向けて(出版準備中)



ワークショップ



連続市民講座

学生、市民、そして世界への情報発信

左記プロジェクト研究のほか平和研究所の活動状況は、逐次ホームページやニュースレターにより世界に向けて情報発信しています。また、「国際シンポジウム」や「連続市民講座」等も開催し、市民に研究成果を広く公開しています。本学においても、「広島・長崎講座」として開講している「平和と人権A(ヒロシマと国際平和)」、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」、「Advanced HIROSHIMA and PEACE」の各講座に対し、研究員が講義を担当しているほか、大学院国際学研究科において「国際関係論A/B」を担当するなど、当研究所の研究成果を教育にも活用しています。

広島平和研究所長

浅井 基文
Motofumi ASAI
日本政治外交論
国際関係論

教授

Christian P.
SCHERRER
民族紛争
紛争解決

教授

金 聖哲
Sung Chul KIM
アジアの社会主義体系
朝鮮半島問題

講師

Robert A.
JACOBS
科学技術史
核兵器の歴史・文化

講師

永井 均
Hitoshi NAGAI
日本・フィリピン関係史
戦争犯罪論

講師

高橋 博子
Hiroko TAKAHASHI
アメリカ史
グローバルヒストリー

教授

Narayanan
GANESAN
東南アジア政治
国際関係

教授

田中 利幸
Toshiyuki TANAKA
戦争犯罪
戦争史

准教授

水本 和実
Kazumi MIZUMOTO
核軍縮
安全保障

講師

金 美景
Mikyung KIM
社会学
北東アジア問題

講師

河上 暁弘
Akihiro KAWAKAMI
憲法学、地方自治論
平和学

講師

竹本真希子
Makiko TAKEMOTO
ドイツ近現代史

地域貢献

広島市立大学は、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の理念とし、社会連携センターを核として、国際、情報科学、芸術、平和の各分野における研究活動の成果を社会に還元する取組みを活発に行っています。社会連携センターは、「産学連携推進」「地域連携推進」「プロジェクト研究」「知的財産マネジメント」の窓口を一元化した組織であり、開学以来蓄積されてきた教育・研究の成果である知的資源や大学が保有するインフラを活用して、地域社会に貢献していくためのさまざまな取組みを行っています。

【産学連携推進】

(研究成果を産業界等に還元することによる社会貢献)

- 研究シーズと企業ニーズのマッチングの推進 (リエゾンフェスタの開催等)
- 共同研究・受託研究の促進
- 企業等からの技術相談への対応

【地域連携推進】

(行政や市民団体との協働による社会貢献)

- 行政課題解決への協力
- NPO、市民などの協働事業
- 生涯学習支援

【知的財産マネジメント】

- 知的財産の権利化、管理、技術移転
- 教職員への知的財産教育

【プロジェクト研究】

- 大学の有する知的財産の社会への還元・実用化を積極的に推進する研究
- 行政課題解決を推進する研究



リエゾンフェスタ



キッズキャンパス

国際交流

海外学術交流協定大学への学生派遣

本学は、ハノーバー専科大学、アラヌス大学、ベルリン・ハイゼンゼー芸術大学(以上ドイツ)、ハワイ大学マノア学校(アメリカ)、オルレアン大学(フランス)、西京大学校(韓国)、西南大学(中国)、国際関係学院(中国)の8大学と学生交換事業を行っています。学生交換事業による留学は、本学に在籍したまま上記の大学へ半年、あるいは1年間留学するものです。語学力を高めることができるだけでなく、派遣先の大学で取得した単位は、一定の条件のもとで本学の単位に認定されます。

海外語学研修参加による単位取得

本学から毎年たくさんの学生が海外で行われる短期語学研修に参加しています。研修に参加すると語学科目(2単位)が認められる制度があります。本学で開講されている8外国語すべてが対象になります。

海外から留学生を積極的に受け入れ

広島市立大学では、各国からの留学生、特にアジアからの留学生の受け入れに積極的に取り組んでいます。そのために、日本語や日本の事情を学ぶ科目を充実させ、奨学金の紹介や外国人教員の任用を進めています。



公開講座

地域のニーズに应运

社会全体の生涯学習ニーズの高まりのなかで、身近な生涯学習機関として大学の果たす役割は大きいものがあります。広島市立大学では、こうしたニーズに適切に应运していくため、広く市民の方々を対象とした、様々な分野での公開講座を積極的に開催しています。また、広島市などが主催し、各大学が連携して公開講座を行うシティカレッジにも参加しています。公開講座は、開学した平成6年度から実施しており、平成19年度は、次の内容で開催し、約400名の方が受講されました。

【平成19年度公開講座】

国際学部

連続講座「国際理解を深めるワークショップ」

情報科学部

講演会「コンピュータの進化の歴史と未来の姿」「リアルタイムシステム～時間を守るコンピュータ」
連続講義「デジタル放送とデジタル通信～現在、そして未来～」
実習「パソコン活用術～CDから起動するLinuxで年賀状作成～」
自由研究「高校生による情報科学自由研究」

芸術学部

〈一般向け公開講座〉

- 「日本画コース」
着衣人物制作
- 「油絵・版画コース」
油絵専門コース:人体F20号の制作
油絵一般コース:人体F15号の制作
版画コース:銅版画の制作
- 「彫刻コース」
塑造で裸婦モデルの制作

- 「デザイン工芸コース」
染織造形コース:フェルトによる帽子づくり
視覚造形コース:親子でアニメーションをつくる



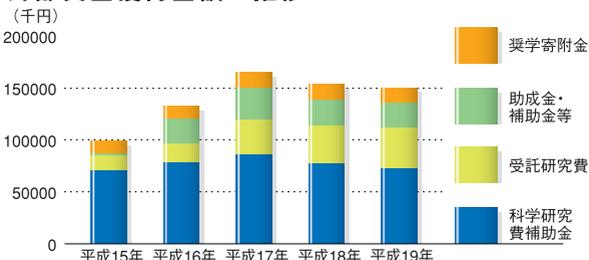
〈中・高校生向けサマースクール〉

- 「日本画コース」
絵画の歴史スライド、日本画制作など
- 「彫刻コース」
木炭デッサン及び講評会
- 「油絵コース」
木炭デッサン及び講評会
- 「デザイン工芸コース」
鉛筆素描による作品の制作及び講評会など

外部資金の活用

本学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や民間の各種財団からの助成金を受けて積極的に学術研究活動を展開しています。これらの外部資金を活用し、独創的・先駆的な研究に取り組んでいます。

外部資金獲得金額の推移



平成20年度科学研究費補助金

(1) 申請及び採択の状況

学部等	申請状況	採択状況
国際学部	22件 59,192千円	10件 21,500千円
情報科学部	85件 157,964千円	31件 33,570千円
芸術学部	6件 17,943千円	1件 1,300千円
平和研究所	7件 9,049千円	5件 4,300千円
社会連携センター	1件 2,100千円	—
合計	121件 246,248千円	47件 60,670千円
内定率		38.8% 24.6%

(2) 採択の内訳

研究種目名	件数	採択額
基盤研究(A)	1件	9,000千円
基盤研究(B)	3件	7,200千円
基盤研究(C)	25件	23,600千円
萌芽研究	1件	1,300千円
若手研究(スタートアップ)	2件	2,570千円
若手研究(B)	15件	17,000千円
合計	47件	60,670千円

■ 何人募集するの？

学 部	学 科 ・ 専 攻	入 学 定 員	募 集 人 員				
			一 般 選 抜		特 別 選 抜		
			前 期 日 程	後 期 日 程	推 薦 入 学		外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜 ※(注2) 参照
		市 内 公 募	全 国 公 募				
国 際 学 部	国 際 学 科	100	60	20	10	10	若 干 名
情 報 科 学 部 ※(注1) 参照	情 報 工 学 科	210	130	40	20	20	若 干 名
	知 能 工 学 科						
	シ ス テ ム 工 学 科						
芸 術 学 部	美 術 学 科	日 本 画 専 攻	10	10			若 干 名
		油 絵 専 攻	20	20			若 干 名
		彫 刻 専 攻	10	10			若 干 名
		計	40	40			若 干 名
		デ ザ イン 工 芸 学 科	40	40			若 干 名
		計	80	80			若 干 名

(注1) 情報科学部の募集は学部一括で行い、学科への配属(各学科定員:70人)は2年次前期終了後に行います。

(注2) 外国人留学生特別選抜の募集人員「若干名」は、一般選抜の募集人員に含まれます。

■ 試験はいつ？

	出 願 期 間	個 別 学 力 検 査 等 期 日	合 格 発 表
推 薦 入 学 (国際学部・情報科学部のみ)	平成20年11月 1日(土)～平成20年11月 7日(金)	平成20年11月15日(土)	平成20年11月26日(水)
前 期 日 程	平成21年 1月26日(月)～平成21年 2月 4日(水)	平成21年 2月25日(水) (芸術学部は下表の日程)	平成21年 3月 7日(土)
外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜			
後 期 日 程 (国際学部・情報科学部のみ)		平成21年 3月12日(木)	平成21年 3月21日(土)

学 科 ・ 専 攻	日 程	備 考
美 術 学 科	第1次 (実技)2月25日(水)／2月26日(木)	第1次実技検査の合格者は募集人員の4倍程度
	第2次 (実技)3月 1日(日)／3月 2日(月)	
	油 絵 専 攻 (実技)2月25日(水)～2月28日(土)	
	彫 刻 専 攻 (実技)2月25日(水)～2月28日(土)	
デ ザ イン 工 芸 学 科	(実技)2月25日(水)～2月27日(金)	

(注) 外国人留学生特別選抜試験では、全学部で面接を行います。

■ 入学料・授業料は？ (金額は、平成20年4月現在のものです。料金改定が行われた場合には、改定後の料金が適用されます。)

- 入学料 (入学手続き時に支払い) 広島市内の者 282,000円 左記以外の者 423,000円
- 授業料 (4月と10月に半期分を支払い) 年額 535,800円

■ 昨年は何人受験したの？

学 部	学 科 ・ 専 攻	試 験 区 分	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	倍 率
国 際 学 部	国 際 学 科	推薦入学(市内公募)	15	15	11	1.4 倍
		推薦入学(全国公募)	38	38	17	2.2
		前期日程	243	225	70	3.2
		後期日程	299	151	29	5.2
		外国人留学生特別選抜	9	7	4	1.8
情 報 科 学 部	情 報 工 学 科 知 能 工 学 科 シ ス テ ム 工 学 科	推薦入学(市内公募)	32	32	21	1.5
		推薦入学(全国公募)	48	48	21	2.3
		前期日程	331	307	150	2.0
		後期日程	348	146	49	3.0
芸 術 学 部	美 術 学 科	日本画専攻	42	39	12	3.3
		油絵専攻	67	65	23	2.8
		彫刻専攻	22	19	11	1.7
		デザイン工芸学科	147	141	48	2.9

■ 合格者の成績は？

前期日程

学 部	試 験 科 目 区 分	配 点	最 高 点	最 低 点	平 均 点
国 際 学 部	大学入試センター試験	600	536.80	421.80	467.82
	個別学力検査等	400	314.00	169.00	243.37
情 報 科 学 部	大学入試センター試験	1,100	828.80	576.00	691.04
	個別学力検査	700	539.00	259.00	391.31
芸 術 学 部	大学入試センター試験 ※個別学力検査等の成績は非公開	600	503.00	253.20	370.79

後期日程

学 部	試 験 科 目 区 分	配 点	最 高 点	最 低 点	平 均 点
国 際 学 部	大学入試センター試験	400	347.00	293.70	324.20
	個別学力検査等	400	267.00	208.00	239.10
情 報 科 学 部	大学入試センター試験	750	587.50	378.75	489.63
	個別学力検査	350	231.00	60.00	125.92

(注) 1.各得点は、小数点第3位を四捨五入しています。 2.配点は、大学入試センター試験の素点を本学の配点に加工しています。

■ 試験科目は？

学部・学科・専攻	学力検査等区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	科目名等	
国際学部 国際学科	前期	国 地歴 公民 数	国(古文・漢文を含む。) } 世A、世B、日A、 日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経 } 「数Ⅰ、数Ⅱ・数Aから1」と 「数Ⅱ・数B、工、簿・会、情報から1」 } から2	小論文 (日本語と英語による出題)	
	後期	理 外	理総A、理総B、物Ⅰ、 化Ⅰ、生Ⅰ、地Ⅰから1 英、独、仏、中、韓から1 [3教科3科目又は3教科4科目]	総合問題 (現代世界の諸問題に関する 理解力、分析力、思考力をみる)	
情報科学部 情報工学科 知能工学科 システム工学科	前期	国 数 理 外	国(古文・漢文を含む。) 数Ⅰ・数Aと「数Ⅱ・数B、工、簿・会、情報から1」 物Ⅰ、化Ⅰ、生Ⅰから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C 物Ⅰ・物Ⅱ、化Ⅰ・化Ⅱから1 英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング	
	後期	数 理 外	数Ⅰ・数Aと「数Ⅱ・数B、工、簿・会、情報から1」 物Ⅰ 英 [3教科4科目]	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	
芸術学部	美術学科 日本画専攻 油絵専攻 彫刻専攻 デザイン 工芸学科	前期	国 地歴 公民 数 理 外	国(古文・漢文を含む。) } 世A、世B、日A、日B、 地理A、地理Bから1 } から2 現社、倫、政経から1 } 数Ⅰ、数Ⅱ・数A、数Ⅱ、 数Ⅱ・数B、工、簿・会、 情報から1 } 理総A、理総B、物Ⅰ、 化Ⅰ、生Ⅰ、地Ⅰから1 } 英、独、仏、中、韓から1 } [3教科3科目]	実技検査 [鉛筆素描、着彩写生] 実技検査 [石膏像デッサン(木炭)、油彩] 実技検査 [石膏像デッサン(木炭)、塑造] 実技検査 [鉛筆素描、感覚考査(平面)、 感覚考査(立体)]

■ 願書はどこでもらえるの？
(学生募集要項の請求方法)

推薦入学学生募集要項、一般選抜学生募集要項及び外国人留学生特別選抜募集要項は、平成20年9月上旬に発表する予定です。
なお、下記(1)・(2)・(3)の方法で発表時期以前に申し込んだ場合、予約受付ができます。

(1) 本学のホームページから請求

詳しくは本学ホームページ(www.hiroshima-cu.ac.jp)をご覧ください。
※送料は、資料に同封された支払方法に従い、お支払いください。

(2) テレメール(24時間受付)による請求

① 下記のいずれかに電話して、自動音声ガイダンスに従って操作してください。

インターネット(携帯電話・パソコン)の場合		電話の場合	
(http://telemail.jp)	IP	電話	050-2015-0555
携帯電話、パソコンとも共通アドレスです。	一般	電話	06-6222-0102
QRコード ※対応する携帯電話で 読み取れます。			

② 資料請求番号(6桁)を入力またはプッシュしてください。

資料	資料請求番号	備考
大学案内及び入学選抜要項	566200	発表時期以前の申込は予約受付
推薦入学学生募集要項のみ	586210	発表時期以前の申込は予約受付
一般選抜学生募集要項のみ	586200	発表時期以前の申込は予約受付
大学案内及び一般選抜学生募集要項	546300	発表時期以前の申込は予約受付

③ あとは音声ガイダンスに従って登録してください。

※送料は、資料に同封された支払方法に従い、お支払いください。

(3) 郵便局での請求

(10月から案内開始。一般選抜学生募集要項に限る。)

郵便局(普通局、特定局)に設置されている「国公立大学・短期大学及び通信教育課程、大学校募集要項(願書)請求申込書」(郵便局用願書請求カタログ)に必要事項を記入のうえ、募集要項のみ請求する場合には210円、大学案内も同時に請求する場合には290円に払込手数料120円を添えて、お近くの郵便局に申し込んでください。

(4) 本学に直接請求

(すべての募集要項共通)

受取人の郵便番号、住所、氏名を明記した返信用封筒(角形2号:33.2cm×24.0cm)に290円分の切手を貼付のうえ、「○○○学生募集要項請求」(○○○には、募集要項名を記入してください。)と朱書きし、下記へ申し込んでください。

【申込先】 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
広島市立大学事務局入試担当

【(1)、(2)、(3)での請求についてのお問い合わせ先】

電話 050-2015-5050(9:30~18:00) テレメールカスタマーセンター

【入学試験に関するお問い合わせ先】

電話 082-830-1503 E-mail:nyushi@office.hiroshima-cu.ac.jp

広島市立大学事務局入試担当



広島ビッグアーチ
Hiroshima Big Arch



原爆ドーム
A-Bomb Dome



広島市民球場
Hiroshima Municipal Baseball Stadium



平和記念公園
Peace Memorial Park

西風新都 Seifu-Shinto

広島市立大学は、西風新都の大塚学研地区
(アカデミック・リサーチパーク)の中核



1 広島駅	JR山陽本線 5分	2 横川駅	バス 12分 (広島高速4号線)
3 広島バスセンター	バス 7分	2 横川駅	バス 12分 (広島高速4号線)
	バス 13分 (広島高速4号線)		
4 アストラムライン県庁前	アストラムライン 33分	6 大塚駅	バス 2分
広島空港	高速バス 38分	5 中筋駅	アストラムライン 20分
岩国駅	高速バス 57分	6 大塚駅	バス 2分

バス停は「広島市立大学前」「広島市立大学入口」の2カ所ありますのでご注意ください。

自動車での所要時間 山陽自動車道五日市I.C.から約6分 広島自動車道広島西風新都I.C.から約15分



厳島神社
Itsukushima Shrine



広島市立大学の魅力にアクセス!

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp>

最新の学内ニュースから入試情報、キャンパスライフまで、
広島市立大学のすべてを紹介。

[入試に関するお問い合わせ先]

事務局入試担当 Phone 082-830-1503
e-mail:nyushi@office.hiroshima-cu.ac.jp



広島市立大学

国際学部/情報科学部/芸術学部

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
Phone 082-830-1500 (代) Fax 082-830-1656